

Nutanix.NCP-CN.v2026-05-16.q77

試験コード :	NCP-CN
試験名称 :	Nutanix Certified Professional - Cloud Native v6.10
認証ベンダー :	Nutanix
無料問題の数 :	77
バージョン :	v2026-05-16
ページの閲覧量 :	109
問題集の閲覧量 :	923

<https://www.jpnsiken.com/shiken/Nutanix.NCP-CN.v2026-05-16.q77.html>

質問: 1

プラットフォームエンジニアが永続ボリュームやその他のクラスターリソースのバックアップと復元を検討しています。バックアップと復元機能を含むNKPライセンスはどれですか？ (2つ選択してください。)

- A. NKPスターター
- B. NKPプロ
- C. NKP エssenシャル
- D. NKPアルティメット

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 2

プラットフォーム エンジニアが NKP の使用を開始し、必要な前提条件をすべて備えた要塞ホストを作成しました。エンジニアは Kommander をどのようにインストールすればよいですか？

- A. AWS CLI
- B. テラフォーム
- C. アンシブル
- D. CLIコード

正解: ([正解を表示します](#))

NKPA 6.10 のドキュメントによると、NKP クラスターに Kommander をインストールするための標準的かつサポートされている方法は、NKP CLI を使用することです。CLI は、クラスターライフサイクル管理ワークフローの一環として、Kommander と関連プラットフォームコンポーネントをデプロイするためのコマンドを提供します。

キーリファレンス:

Kommanderを導入する際に推奨されるアプローチは、nkp CLIを使用することです。これにより、Nutanix Kubernetes Platformスタックの他の部分との互換性が確保され、インストールが簡素化されます。参考:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - NKP CLI を使用した Kommander のインストール」NCP-CN 6.10 学習ガイド - Kommander のインストールと管理」

質問: 3

ある企業では、事業部門ごとに異なるKubernetesクラスターを運用しています。本番環境と開発環境では導入するソフトウェアが異なるため、各事業部門には本番環境用と開発環境用のKubernetesクラスターが別々に存在します。現在、全事業部門の本番環境用クラスターは標準化されており、開発環境用クラスターも標準化されています。

同社は最近、すべての Kubernetes クラスター用の NKP Ultimate ライセンスを取得しました。

企業はどのようにして、すべてのクラスター (本番環境と開発環境) の両方の環境の標準構成を制御できるでしょうか？

- A. 本番環境ワークスペースと開発環境ワークスペースを構成し、各 Kubernetes クラスターを対応するワークスペースに接続します。
- B. すべての Kubernetes クラスターに Flux をインストールし、すべての Kubernetes クラスターで適切な kustomize.yaml を構成します。
- C. すべてのビジネス ユニットに対して、NKP を使用して運用および開発用の新しい Kubernetes クラスターを作成します。
- D. 適切な kustomize.yaml を使用して、すべての Kubernetes クラスターに Flux をインストールします (nkp install flux -- kustomize=kustomize.yaml -- kubeconfig=<cluster>.conf)。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

NKPA 6.10 のドキュメントでは、NKP のワークスペースは複数のクラスターにわたる構成を論理的にグループ化し、標準化するために使用されることが確認されています。本番環境ワークスペースと開発環境ワークスペースを作成することで、組織は関連するすべてのクラスターに対して標準化された構成とポリシーを制御および適用できます。

正確な抜粋:

「ワークスペースは、複数のクラスターにわたるリソース、構成、ポリシー管理を論理的に分離し、標準化された操作を可能にします。」参考:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - ワークスペースとマルチクラスター管理」NCP-CN 6.10 学習ガイド - クラスター間の構成の標準化」

質問: 4



クラスターarcaは、ワーカーの追加が必要となる新しいアプリケーションをホストします。同社はNKPライセンスを追加取得できないため、デモクラスターを削除し、必要なワーカーをarcaクラスターに追加することにしました。

エンジニアはこの UI からデモ クラスターをどのように削除すればよいでしょうか？

- A. 右側の (demo」クラスター ライン) の 3 つのドット メニューを押して、kubeconfig のダウンロードを選択し、そのファイルを使用して kubectl delete cluster -c demo --kubeconfig=demo.conf を実行します。
- B. 右側にある (デモ」クラスター ライン) 3 点メニューを押して、[削除] を選択します。
- C. 右側にある demo」クラスターの行の3点メニューを押し、Detach」を選択します。その後、クラスターの所有者にクラスターの削除を依頼します。
- D. kommander クラスターに SSH でログインし、kubectl delete cluster -c demo を実行します。

正解: [B \(コメントを发表する\)](#)

この図では、NKP UI に 'arca」、'demo」、'production」などのクラスターのリストが表示されており、それぞれの右側に3点メニューがあります。NKPA コースでは、NKP UI から直接クラスターを削除するには、クラスターの3点メニューにある 削除」オプションを使用する必要があると説明されています。この操作により削除プロセスが開始され、クラスターは NKP の管理から削除され、関連するライセンス (例NKP ライセンスに基づく CPU コアベースのライセンス) が解放されます。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「NKP で UI を使ってクラスターを削除するには、クラスターリストに移動し、対象クラスター (例demo) の 3 点メニューをクリックし、削除」を選択してクラスターとそのリソースを削除します」と記載されています。図の UI もこの手順に沿っており、demo」クラスターの横に 3

点メニューが表示され、そこに「削除」オプションが含まれています。これは、demo クラスタを削除し、arca クラスタにリソースを再割り当てする最も簡単な方法です。

誤ったオプション:

* A. kubeconfig をダウンロードし、kubectl delete cluster を使用します。kubectl delete cluster は NKP クラスタの削除には有効なコマンドではありません。NKP はクラスタの削除に nkp CLI または UI を使用します。

* C. 「デタッチしてクラスタ所有者に削除を依頼」を選択します。デタッチは外部クラスタ（例EKS）用であり、「demo」のようなNutanixインフラストラクチャ上のNKP管理クラスタには適用されません。デタッチしてもクラスタは削除されません。

* D. kommander クラスタに SSH で接続し、kubectl delete cluster を実行します。Kommander は管理コンポーネントですが、kubectl delete cluster は NKP クラスタの削除には有効なコマンドではありません。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、クラスタ管理のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、2 日目の操作に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 5

Nutanix プロビジョニング方式 (CAPX) を使用して NKP を展開する場合、サポートされる OS プラットフォームは何ですか？

A. CentOS と Rocky Linux

B. CentOS と Ubuntu

C. Rocky Linux と Ubuntu

D. Flatcar、Rocky Linux、Ubuntu

正解: **C** ([コメントを发表する](#))

質問: 6

プラットフォーム エンジニアは NKP を導入し、その OOB データ ストレージ機能を利用したいと考えています。

NKP 環境内でバックアップをサポートするには、エンジニアは何を有効にする必要がありますか？

A. ミニIO

B. ルーク・セフ

C. ボリューム iSCSI

D. オブジェクト S3

正解: ([正解を表示します](#))

NKPA 6.10 のドキュメントによると、Rook Ceph は、Kubernetes 環境内での永続的なデータ ストレージ、バックアップ、およびオブジェクト ストレージ用に NKP と統合されたすぐに使用できる推奨ストレージ ソリューションです。

キーリファレンス:

「Rook CephはNKPと統合されており、クラスタ内で永続的なストレージとバックアップサポートを提供します。」参考:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - 「NKP のストレージアーキテクチャ」NCP-CN 6.10 学習ガイド - 「OOB ストレージ向け Rook Ceph」

質問: 7

Kubernetes管理者は、DRデータセンターに新しいNKPデプロイメントを展開する必要があります。クラスタ情報:

6.10

ハイパーバイザーはAHV

6 つの NX-8170-G9 ノード管理者はプロンプトベースの CLI 展開方法呼び出すためにどのコマンドを使用する必要がありますか？

- A. nkp ノードプール nutanix を作成します
- B. nkp クラスタ ahv を作成
- C. nkp インストール kommander
- D. nkp クラスタ Nutanix を作成

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 8

ある企業は開発にArtifactoryのプライベートレジストリを使用しています。セキュリティ管理者がファイアウォールを設定してパブリックコンテナレジストリへの接続を拒否しているため、NKPのデプロイメントではこのプライベートレジストリを使用する必要があります。最初のタスクは、NKPバンドルをこのプライベートレジストリにプッシュすることです。

NKP バンドルをこのプライベート レジストリにプッシュするには、どのようなオプションを使用する必要がありますか？

- A. --registry-mirror-url、--registry-mirror-username、および --registry-mirror-password
- B. --mirror-url、--mirror-username、および --mirror-password
- C. --registry-url、--registry-username、および --registry-password
- D. --to-registry、--to-registry-username、および --to-registry-password

正解: ([正解を表示します](#))

NKP バンドルをプライベート レジストリにミラーリングする場合、推奨される方法は、--to-registry オプションを指定した nkp bundle push または同様のコマンドを使用して、資格情報 (-- to-registry-username および --to-registry-password) とともにターゲット レジストリを指定することです。

ドキュメントからの主な参照:

「--to-registry フラグを --to-registry-username および --to-registry-password とともに使用して、NKP バンドルをプライベート レジストリにプッシュします。」参考:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - NKP バンドルをプライベート レジストリにプッシュする」NCP-CN 6.10 学習ガイド - NKP のレジストリ ミラーリング」

質問: 9

プラットフォーム エンジニアは、インターネット アクセスのないダーク サイトに NKP クラスタを展開します。クラウド管理者はこの目的のために Linux VM を提供しているため、エンジニアはこの VM を要塞ホストとして使用できるように準備する必要があります。このタスクを完了するために、エンジニアが実行すべき 2 つのアクションはどれですか (2 つ選択してください)。

- A. LDAP サーバーをインストールします。
- B. SSH キーを取得または作成します。
- C. Docker をインストールします。
- D. NTP サービスを有効にします。

正解: B,D ([コメントを发表する](#))

ダークサイト環境に設置された要塞ホストは、NKPデプロイメントを管理するための安全なエン트리ポイントとして機能し、直接インターネットに接続することなくクラスタインフラストラクチャへのアクセスを提供します。NKPAコースでは、Linux VMを要塞ホストとして準備するための前提条件について概説し、エアギャップKubernetesデプロイメントに不可欠な安全なアクセスと時刻同期に焦点を当てています。

* SSHキーの取得または作成 (オプションB) Bastionホストでは、NKPクラスタノードやその他のインフラストラクチャコンポーネント (Nutanix AHVホストなど) への安全なパスワードレスアクセスを実現するために、SSHキーが必要です。NKPAコースでは、導入および管理タスク中の安全な通信を実現するために、BastionホストでSSHキーを生成または取得し、設定する必要があると規定されています。Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10学習ガイドには、「NKPダークサイト導入におけるBastionホストでは、クラスタノードおよびインフラストラクチャへの安全なアクセスを実現するために、SSHキーが作成または取得されていることを確認する必要があります」と記載されています。エンジニアはssh-keygenを使用してSSHキーを生成し、公開鍵を対象システムに配布できます。

* NTPサービスの有効化 (オプションD) Kubernetesクラスタでは、ログ記録、証明書管理、スケジューリングの一貫性を確保するために、時刻同期が不可欠です。インターネットアクセスのないダークサイトでは、要塞ホストを内部NTP (Network Time Protocol) サーバーと同期させるか、要塞ホスト自体をNTPサーバーとして動作させるように設定する必要があります。NKPAコースでは、エアギャップ環境全体で正確な時刻を維持するために、要塞ホストでNTPサービスを有効にすることに重点を置いています。NCP-CN 6.10学習ガイドには、「Kubernetesが適切に動作するには正確な時刻が必要であるため、ダークサイトNKPデプロイメントで時刻同期を確実に行うには、要塞ホストでNTPサービスを有効にする必要があります」と記載されています。エンジニアは、systemctl enable ntpdなどのコマンドを使用してNTPを有効にし、内部時刻ソースを使用するように設定できます。

誤ったオプション:

* A. LDAPサーバーのインストール LDAPは集中認証に使用されますが、NKPダークサイト展開における要塞ホストでは必須ではありません。このコースでは、SSHアクセスに焦点を当てます。

* C. Docker をインストールする: コンテナ ランタイムのために Kubernetes ノードに Docker が必要ですが、要塞ホストの役割はコンテナを実行することではなく、安全なアクセスと管理を提供することです。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、ダーク サイト デプロイメントの準備に関するセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、NKP 展開の前提条件に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 10

プラットフォームエンジニアはバックアップとリカバリの要件を抱えており、NKPに同梱されているすぐに使えるソリューションを活用したいと考えています。NKPに同梱されているバックアップとリカバリのソリューションとは何ですか？

- A. Nutanix スナップショット
- B. 帆船
- C. タール
- D. キャビネット

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 11

プラットフォームエンジニアは、コマンドラインからNKPワークスペース内のすべてのクラスタにNKPプラットフォームアプリケーションをデプロイしたいと考えています。使用するコマンドセットと、それに指定する必要があるパラメータは何ですか？

- A. nkp deploy app コマンドセットが使用されます。アプリケーションIDとクラスタのNKPワークスペースを指定する必要があります。
- B. nkp create appdeployment コマンドセットを使用します。アプリケーションIDとバージョン、およびクラスタのNKPワークスペースを指定する必要があります。
- C. nkp deploy platform-app コマンドセットが使用されます。アプリケーションIDとクラスタのNKPワークスペースを指定する必要があります。
- D. kubectl create appdeployment コマンドセットを使用します。アプリケーションIDとクラスタのNKPワークスペースを指定する必要があります。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 12

プラットフォームエンジニアはNKP v2.12.x環境を管理しており、NKP Image Builder (NIB)を使用してカスタムイメージを作成しています。このタスクでエンジニアが使用できるディストリビューションは2つありますか？ (2つ選択してください。)

A. ウブントゥ

フェドラー

B. ロッキーリナックス

C. CentOS

正解: ([正解を表示します](#))

NKPAコースでは、NKPクラスタノード用のカスタムマシンイメージを作成するために使用されるNutanix Image Builder (NIB)が、NutanixインフラストラクチャおよびKubernetesの要件と互換性のある特定のLinuxディストリビューションをサポートすることを規定しています。NKP v2.12.xの場合、NIBのサポート対象ディストリビューションはUbuntuとRocky Linuxです。これらはNKPのデプロイメント向けにテストおよび最適化されており、Cluster API (CAPI)およびNutanix AHVとの安定性と互換性を確保しています。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「NKP Image Builder (NIB) は、NKP クラスタノード用のカスタムイメージを作成するためのベースディストリビューションとして Ubuntu と Rocky Linux をサポートし、Kubernetes および Nutanix インフラストラクチャとの互換性を確保しています」と記載されています。Ubuntu は、広く使用され、十分なサポートが受けられる長期サポート (LTS) 版のベースを提供しています。一方、Rocky Linux は、特に 2021 年に CentOS 8 のサポートが終了した後、Nutanix がその信頼性とエンタープライズ志向を理由に採用した CentOS の代替製品です。

誤ったオプション:

* B. Fedora: Fedora は、本番環境の Kubernetes 環境よりも最先端の開発に適しているため、NKP の NIB ではサポートされていないディストリビューションです。

* D. CentOS :CentOS 8は2021年12月にサポート終了となり、NutanixはNKPイメージ構築の代替としてRocky Linuxを採用しました。本コースでは、NKP v2.12.xのNIBサポート対象としてCentOSは記載されていません。

:
Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、NIB を使用したイメージ構築のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、NKP 展開の前提条件に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 13

Refer to the exhibit.

NUTANIX™

```
✓ Creating a bootstrap cluster
✓ Upgrading CAPI components
✓ Waiting for CAPI components to be upgraded
✓ Initializing new CAPI components
✓ Creating ClusterClass resources
✓ Creating ClusterClass resources
Generating cluster resources
✓ Waiting for cluster infrastructure to be ready
✓ Waiting for cluster control-planes to be ready
✓ Waiting for machines to be ready
✗ Upgrading CAPI components
error running controllers in new cluster: error upgrading CAPI components: unable to upgrade CAPI components:
deployment "capp-controller-manager" is not ready after 10m0s: failed to connect to the management cluster:
action failed after 0 attempts: context deadline exceeded
```

管理者がNKPクラスタをプロビジョニングしています。VM作成タスクの実行後、図に示すエラーが発生します。

理由は何でしょう？

- A. プライベート レジストリ ソフトウェアまたはバージョンは推奨されません。
- B. VM に Linux バージョンがありません。
- C. VM はレジストリと通信できません。
- D. NKP ソフトウェアがレジストリにロードされていません。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

エラーには次のように記載されています:

pgsql

コピー

CAPIコンポーネントのアップグレードエラー :CAPIコンポーネントをアップグレードできません :デプロイメント 「capp-controller-manager」は10分経過しても準備完了ではありません :管理クラスタへの接続に失敗しました :コンテキストの期限切れを超えました。これは明らかに、VM (またはノード)と管理クラスタ間の接続に問題があることを示しています。これは通常、エアギャップ環境またはプライベート環境におけるレジストリ通信の問題によって発生します。VMがレジストリに接続できず、必要なイメージや構成を取得できない場合、CAPI (クラスタ-API)コンポーネントを初期化できず、タイムアウトが発生します。

キーリファレンス:

* Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - 「エアギャップとレジストリ通信の問題」

* NCP-CN 6.10 学習ガイド - 「クラスタ API のアップグレード プロセスとネットワークの前提条件」

質問: 14

ある金融会社では、DevOpsチームが会社のすべての重要なアプリケーションのサポートを担っています。チームは経験豊富なチームでしたが、クラスタのヘルスチェックの手动管理はますます複雑になり、エラーが発生しやすくなっていました。

チームは、これらの問題への最善の対処方法について社内のプラットフォームエンジニアに相談しました。エンジニアには、このような事象が発生していることを伝えました。

- 1.ポッドセキュリティ標準の省略。
- 2.クラッシュループのケース。
3. kube-bench のデプロイまたは実行時にノードが失敗しました。
エンジニアは DevOps チームにどのような推奨事項を提供する必要がありますか？

- A. AlertManager と NKP Insights を併用します。
- B. `nkp describe cluster --cluster-name=${CLUSTER_NAME}` コマンドを実行します。
- C. YAML 形式で MachineHealthCheck リソースを作成します。
- D. オーバーライド ConfigMaps を使用してアラート ルールを構成します。

正解: [A \(コメントを發表する\)](#)

質問: 15

Refer to the exhibit.

```
kubectl create namespace tenant-innovation  
kubectl create namespace tenant-analytics
```

DevOpsチームは、NKPクラスタ内の複数のアプリケーションからのログ管理という、ますます大きな課題に直面しています。複数のチームが異なるプロジェクトに取り組んでいるため、各チームがそれぞれのログに安全かつ効率的にアクセスできるマルチテナント・ロギング・システムを実装することが不可欠です。図に示すように、当初はプロジェクトごとに2つの名前空間が設定されました。次に、ログ設定を含むConfigMapがテナントごとに設定されました。tenant-innovationの保存期間が30日間、tenant-analyticsの保存期間が7日間である場合、どのYAML出力が該当するでしょうか？

- A. `yamlCollapseWrapCopyapiVersion: v1kind: ConfigMapmetadata:name: logging-innovation-confignamespace: tenant-innovationdata:values.yaml: |
loki:structuredConfig:limits_config:retention_period: 30d---apiVersion: v1kind: ConfigMapmetadata:name: logging-analytics-confignamespace: tenant-analyticsdata:values.yaml: |loki:structuredConfig:limits_config:retention_period: 7d`
- B. `yamlCollapseWrapCopyapiVersion: v1kind: ConfigMapmetadata:name: logging-innovation-confignamespace: tenantdata:values.yaml: |
loki:structuredConfig:limits_config:retention_period: 30d---apiVersion: v1kind: ConfigMapmetadata:name: logging-analytics-confignamespace: tenantdata:values.yaml: |loki:structuredConfig:limits_config:retention_period: 7d`
- C. `yamlCollapseWrapCopyapiVersion: v1kind: ConfigMapmetadata:name: logging-innovation-confignamespace: tenant-innovationdata:values.yaml: |
loki:structuredConfig:limits_config:retention_period: 30d---apiVersion: v1kind: ConfigMapmetadata:name: logging-analytics-confignamespace: tenant-innovationdata:values.yaml: |loki:structuredConfig:limits_config:retention_period: 7d`
- D. `yamlCollapseWrapCopyapiVersion: v1kind: ConfigMapmetadata:name: logging-innovation-confignamespace: tenant-innovationdata:values.yaml: |
loki:structuredConfig:limits_config:retention_period: 30h---apiVersion: v1kind: ConfigMapmetadata:name: logging-analytics-confignamespace: tenant-analyticsdata:values.yaml: |loki:structuredConfig:limits_config:retention_period: 7h`

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 16

クラウドエンジニアは、クラウドで稼働しているNKPクラスタを構成したいと考えています。コンテナワークロードを実行するためのリソース容量を動的に拡張・圧縮することで、オンライン小売取引のパフォーマンスに影響を与えることなく、リソースを効率的に活用できるようになります。これは、予測不可能な急増や停滞がますます増加しているオンライン小売取引のパフォーマンスに影響を与えることなく、リソースを効率的に活用するのに役立ちます。

NKP はどのような自動スケーリング方法を使用し、どのようにスケーリングしますか？

- A. 水平ポッドオートスケーラーとワーカーノードのCPU/メモリサイズ設定

- B. クラスタオートスケーラーとワーカーノードのレプリカ
- C. クラスタオートスケーラーとワーカーノードのCPU/メモリのサイズ設定
- D. 水平ポッドオートスケーラーとワーカーノードのレプリカ

正解: ([正解を表示します](#))

有効的なNCP-CN問題集はJPNTTest.com提供され、NCP-CN試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新NCP-CN試験問題集を提供します。JPNTTest.com NCP-CN試験問題集はもう更新されました。ここでNCP-CN問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-CN-mondaishu> 111問、30%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 17

ある組織が、研究開発用に新しいNKPクラスタ群を構築しています。研究開発ディレクターは、研究開発専用インフラストラクチャにおけるチームへの完全な管理者権限を必要としています。

エンジニアがこれらの目標を確実に達成するための適切な方法は何ですか？

- A. 'R&D' NKP コネクタとインフラストラクチャ プロバイダーを作成します。'R&D' NKP グループを作成し、管理者レベルのロールを割り当てます。'R&D' NKP グループを 'R&D' NKP コネクタに割り当てます。NKP クラスタを 'R&D' ワークスペースに展開します。
- B. R&D」NKPワークスペースを作成します。このワークスペースに R&D」インフラストラクチャプロバイダーを作成します。R&Dチームメンバー用の R&D」NKPグループを作成し、その中で管理者レベルのロールを割り当てます。NKPクラスタを R&D」ワークスペースに展開します。
- C. このワークスペース内に R&D」NKPワークスペースとプロジェクトを作成します。R&D」NKPプロジェクトにNKPインフラストラクチャプロバイダーを作成します。R&Dチームメンバー用の R&D」NKPグループを作成し、このプロジェクト内で管理者レベルのロールを割り当てます。NKPクラスタを R&D」ワークスペースにデプロイします。
- D. 'R&D' NKP コネクタとインフラストラクチャ プロバイダーを作成します。'R&D' NKP グループを作成し、管理者レベルのロールを割り当てます。'R&D' NKP グループを 'R&D' NKP インフラストラクチャ プロバイダーに割り当てます。NKP クラスタを 'R&D' ワークスペースに展開します。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 18

プラットフォームエンジニアがNKP UIから接続されたクラスタを削除しようとしたのですが、削除中」状態のまま削除されません。このクラスタをデタッチしてUIから削除し、NKPによる管理対象から外すにはどうすればよいでしょうか？

- A. NKP 管理クラスタのコンテキストで `kubectl delete cluster` コマンドを実行します。
- B. NKP 接続クラスタのコンテキストで `nkp delete kommandercluster` コマンドを実行します。
- C. NKP アタッチされたクラスタのコンテキストで `nkp delete cluster` コマンドを実行します。
- D. NKP 管理クラスタのコンテキストで `kubectl delete kommandercluster` コマンドを実行します。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 19

プラットフォームエンジニアは、いくつかのNKPアプリケーションをインストールしたいと考えていますが、一部のコンポーネントのデフォルト構成仕様に若干の変更を加えています。また、Kubernetes用に別のバックアップユーティリティを既に利用しているため、Velero自体は無効化できます。

アプリケーションを展開するときに、エンジニアはこれらの目標を達成するためにどの手順を利用しますか？

A. nkp install kommander --init を出力ファイルに実行します。

出力ファイルで変更するコンポーネントのカスタム仕様を設定します。

出力ファイルを指定して、nkp install kommander コマンドを使用して NKP アプリケーションを展開します。

NKP アプリケーションのインストールが完了したら、kubectl delete hr -n kommander velero を実行します。

B. nkp install kommander --init を出力ファイルに実行します。

出力ファイルで Velero を無効にし、変更するコンポーネントのカスタム仕様を設定します。

出力ファイルを指定して、nkp install kommander コマンドを使用して NKP アプリケーションを展開します。

C. nkp config kommander --init を出力ファイルに対して実行します。

出力ファイルで Velero を無効にし、変更するコンポーネントのカスタム仕様を設定します。

出力ファイルを指定して、helm install コマンドを使用してアプリケーションをデプロイします。

D. nkp config コマンドを実行します。

結果の出力ファイルで Velero を無効にし、変更するコンポーネントのカスタム仕様を設定します。

出力ファイルを指定して、nkp install kommander コマンドを使用して NKP アプリケーションを展開します。

正解: **B** ([コメントを發表する](#))

NKPA 6.10のドキュメントでは、アプリケーションのデプロイメントをカスタマイズする (Veleroの無効化を含む) 適切な方法は、nkp install kommander --initコマンドを使用して設定ファイルを生成することであると記載されています。このファイルを編集してカスタム仕様を設定し、Veleroを無効化し、最後にnkp install kommanderコマンドを使用してデプロイします。

正確な抜粋:

「--init を使用してカスタム構成ファイルを生成し、特定の環境に合わせて変更し (Velero の無効化を含む)、同じ nkp install kommander コマンドでデプロイします。」参考:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - 「Kommander インストールのカスタマイズ」 NCP-CN 6.10 学習ガイド - 「NKP アプリケーションの導入とカスタマイズ」

質問: **20**

展示物を参照してください。

クラウド管理者がdemoという名前のKubernetesクラスターをプロビジョニングしましたが、現在はアクティブに使用されていません。システムエンジニアによる簡単なレビューで、次のVMがdemo Kubernetesクラスターの一部であることが確認されました。

```
[nutanix@nkp-boot ~]$ kubectl get clusters -A
NAMESPACE          NAME          CLUSTERCLASS  PHASE
default            nkp          nkp-nutanix   Provisioned
kommander-default-workspace demo         nkp-nutanix   Provisioned
kommander-default-workspace production   nkp-nutanix   Provisioned

[nutanix@nkp-boot ~]$ kubectl get nodes --kubeconfig=demo.conf
NAME                                STATUS    ROLES    AGE   VERSION
demo-drrq4-bhm8p                   Ready    control-plane  146m  v1.29.9
demo-drrq4-kk842                   Ready    control-plane  145m  v1.29.9
demo-drrq4-zr5qz                   Ready    control-plane  148m  v1.29.9
demo-md-0-8vb6t-829g8-bpsxr        Ready    <none>      146m  v1.29.9
demo-md-0-8vb6t-829g8-gv7gd        Ready    <none>      146m  v1.29.9
demo-md-0-8vb6t-829g8-pqnmr        Ready    <none>      147m  v1.29.9
demo-md-0-8vb6t-829g8-qfcbv        Ready    <none>      146m  v1.29.9
demo-md-0-8vb6t-829g8-x75dw        Ready    <none>      83m   v1.29.9
```

デモ クラスターを適切に削除するにはどうすればよいですか？

- A. `nkp delete cluster -c demo -n kommander-default-workspace` を実行します。
- B. すべての VM を削除し、結果を通知します。
- C. CVM から `acli vm.delete demo*` を実行します。
- D. `kubectl config delete-cluster demo -n kommander-default-workspace` を実行し、VM を削除します。

正解: **A** ([コメントを发表する](#))

包括的かつ詳細な説明 :

NKP クラスターを削除する正しい手順は、適切なクラスター名と名前空間を指定して `nkp delete cluster` コマンドを使用することです。これにより、Kubernetes リソースだけでなく、対応する NKP リソース (ノードプール、Kommander 統合など) も、クリーンかつ一貫性を持って削除されます。

VM を削除するだけでは、関連する NKP 管理オブジェクトはクリーンアップされません。この方法については、クラスタライフサイクル管理に関する NKP ドキュメントで詳しく説明されており、完全な削除には提供されている CLI コマンドを使用する必要があることが強調されています。

参考資料: NCP-CN-6.10 コース教材 - クラスタ削除コマンド

質問: 21

プラットフォームエンジニアは AWS 上で Kubernetes クラスターバージョン 1.28.1 を実行しており、これをバージョン 1.29.9 にアップグレードする必要があります。このクラスターは Nutanix NKP でデプロイされています。この要件を満たすために、エンジニアが実行すべき 2 つのアクションはどれですか？ (2 つ選択してください。)

- A. `nkp update nodepool aws ${NODEPOOL_NAME} --cluster-name=${CLUSTER_NAME} --kubernetes-version=v1.29.9` を使用してワーカーをアップグレードします。
- B. `nkp upgrade nodepool aws ${NODEPOOL_NAME} --cluster-name=${CLUSTER_NAME} --kubernetes-version=v1.29.9` を使用してワーカーをアップグレードします。
- C. `nkp update controlplane aws --cluster-name=${CLUSTER_NAME} --ami AMI_ID --kubernetes-version=v1.29.9` を使用してコントロールプレーンをアップグレードします。

D. `nkp update cluster aws --cluster-name=${CLUSTER_NAME} --ami AMI_ID --kubernetes-version=v1.29.9` を使用してクラスターをアップグレードします。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 22

NKP クラスターノードは、アプリケーションの永続ボリューム要件とは別に、デプロイされたコンポーネントの一部にディスクを必要とします。これらのコンポーネントとは何ですか？また、どこにデプロイされていますか？

- A. `/var/lib` 内の `kubelet` と `containerd`
- B. `kubelet` と `containerd` (`/opt/nkp` 内)
- C. `/var/nkp` の `kubectl` と `kubelet`
- D. `/opt/nkp` 内の `kubectl` と `kubelet`

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 23

ある企業には軽量 Kubernetes を搭載したエッジデバイスが 30 台あり、開発者はすべてのエッジデバイスにアプリケーションをプッシュする必要があります。NKP 管理者は NKP Ultimate ライセンス層を設定しており、30 台のエッジデバイスのすべての `kubeconfig` ファイルにアクセスできます。管理者がアプリケーションのデプロイメントのライフサイクル管理を行う最も効率的な方法は何でしょうか？

- A. GitHub 構成を作成し、それを 30 台のエッジ デバイスに展開して、GitHub アカウントを使用するように構成します。
- B. 開発者に軽量 Kubernetes を削除し、NKP を使用して新しい Kubernetes クラスターをデプロイするよう依頼します。
- C. すべてのエッジ デバイスへの展開を自動化するスクリプトを作成します。
- D. 新しいワークスペースを作成し、Attach Cluster を使用して 30 個のエッジ デバイスをこのワークスペースに接続します。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 24

プラットフォームエンジニアが永続ボリュームやその他のクラスターリソースのバックアップと復元を検討しています。(バックアップと復元機能を含む NKP ライセンスはどれですか？ 2 つ選択してください。)

- A. NKP スターター
- B. NKP エssenシャル
- C. NKP アルティメット
- D. NKP プロ

正解: ([正解を表示します](#))

NKPA コースでは、NKP のバックアップと復元機能は Velero との統合によって提供され、永続ボリューム、クラスターリソース、アプリケーションデータを S3 互換ストレージにバックアップできることについて詳しく説明します。この機能は高度な機能とみなされており、上位の NKP ライセンスである NKP Ultimate および NKP Pro に含まれています。

* NKP Ultimate : この最上位ライセンスには、エアギャップデプロイメント、フリート管理、バックアップ/リストア機能など、NKP のすべての機能が含まれていません。包括的なディザスタリカバリを必要とするエンタープライズグレードの環境向けに設計されています。

* NKP Pro: この中間層ライセンスにはバックアップと復元の機能も含まれており、堅牢なデータ保護を必要としているものの、Ultimate 層のすべての機能 (エアギャップ サポートなど) は必ずしも必要としない組織のニーズに対応します。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「Velero を活用したバックアップおよび復元機能は、NKP Pro および NKP Ultimate ライセンス層で利用可能であり、永続ボリュームとクラスターリソースの保護を可能にします」と記載されています。これらのライセンスは、S3 互換ストレージを使用して Velero を構成し、バックアップをスケジュールし、本番環境で復元を実行するために必要なツールとサポートを提供します。

誤ったオプション:

* A. NKP Starter :Starter層はエントリーレベルであり、バックアップや復元などの高度な機能は含まれていません。基本的なクラスター管理に重点を置いています。

* B. NKP Essential: この層は、NKP のライセンス モデルに存在する場合、より低い層であり、NKPA コースで言及されていないため、バックアップ/復元機能は含まれない可能性があります。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、バックアップと復元のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、ライセンスと Day 2 運用に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 25

```
[nutanix@nkp-boot ~]$ nkp get nodepools -c demo -n kommander-default-workspace
NODEPOOL DESIRED READY KUBERNETES VERSION
md-0      10      10      v1.29.9
md-1      1       1       v1.29.9

[nutanix@nkp-boot ~]$ kubectl get nodes --kubeconfig=demo.conf
NAME                                STATUS ROLES          AGE   VERSION
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-24rgz        Ready <none>          127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-6cmwz        Ready <none>          22h  v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-9hkgd        Ready <none>          127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-dqzlx        Ready <none>          127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-j45lw        Ready <none>          127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-nbbjj        Ready <none>          127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-r5sdb        Ready <none>          127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-rgczs        Ready <none>          22h  v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-swtfd        Ready <none>          127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-znb72        Ready <none>          127m v1.29.9
demo-md-1-hq2sz-mw4p6-fptcc        Ready <none>          6h15m v1.29.9
demo-prt8d-qf5d4                    Ready control-plane  22h  v1.29.9
```

demo という Kubernetes クラスターのノードプールを確認すると、ワーカーが 1 つしかない md-1 というノードプールがあります。このワーカーは、ノードプール md-1 と一緒に削除する必要があります。

このタスクはどのようにして達成すべきでしょうか?

- A. `ncli vm.delete demo-md-1-hQ2sz-mw4p6-fptc` を実行します。
- B. `accli vm.delete デモ-md-1-hQ2sz-mw4p6-fptc` を実行します。
- C. `nkp delete nodepool md-1 --cluster-name=demo` を実行します。
- D. `nkp node scale nodepool md-1 --replicas=0 --cluster-name=demo` を実行します。

正解: C ([コメントを发表する](#))

質問: 26

プラットフォームエンジニアは、エアギャップ環境のプライベートレジストリにNKPバンドルをロードした後、ブートストラップクラスターを作成するためにKonvoyブートストラップイメージが必要になります。Konvoyイメージがレジストリにロードされていません。要塞ホストにKonvoyブートストラップイメージをロードする最も効果的なコマンドはどれですか？

- A. `docker load -i konvoy-bootstrap-image-<バージョン>.tar`
- B. `docker image tag konvoy-bootstrap-image-<version>.tar バージョン docker.io/konvoy-bootstrap バージョン`
- C. `nkp push bundle --bundle konvoy-bootstrap-image-<version>.tar --to-registry=<REGISTRY_URL>`
- D. `nkp load image -f konvoy-bootstrap-image-<version>.tar --to-registry=<REGISTRY_URL>`

正解: **A** ([コメントを发表する](#))

エアギャップNKPデプロイメントでは、Konvoyブートストラップイメージ (ブートストラップクラスターの作成に使用)が、Bastionホストのローカルまたはプライベートレジストリで利用可能である必要があります。NKPAコースでは、NKPエアギャップバンドルを解凍した後、ブートストラップイメージ (例konvoy-bootstrap-image-<version>.tar)はtarballとなり、ブートストラップクラスターを作成する前にBastionホスト上のDockerデーモンにロードする必要があると指定されています。

最も実行可能なコマンドは `docker load -i konvoy-bootstrap-image-<version>.tar` (オプションA) です。このコマンドは、tarball をBastionホスト上のローカルDockerデーモンにロードし、`nkp create bootstrap` コマンドでイメージを使用できるようにします。Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「エアギャップ環境では、`docker load -i <image- tar-file>` を使用してKonvoyブートストラップイメージをBastionホストにロードし、ブートストラップクラスターの作成に使用できるようにします」と記載されています。ロード後、エンジニアは必要に応じてイメージにタグを付け、プライベートレジストリにプッシュできますが、質問はホストへのイメージのロードに焦点を当てており、このコマンドはそれを実行します。

誤ったオプション:

- * B. `docker image tag`: このコマンドは構文的に誤りです (versionが2回出現し、.tarがタグの一部ではありません)。タグ付けはイメージをロードした後の次のステップであり、イメージをロードするための主要なアクションではありません。
- * C. `nkp push bundle`: これはイメージをロードするための有効なコマンドではありません。バンドル管理アクションに近いですが、構文が正しくありません。
- * D. `nkp load image`: NKP には `nkp load image` コマンドはありません。イメージの読み込みは `docker load` を介して行われます。

:
Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、エアギャップ デプロイメントのセクション。
Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、NKP 展開の前提条件に関する章。
Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 27

プラットフォームエンジニアは、高度にセキュアなvSphere環境にNKPを導入しています。NKPクラスターはエアギャップ構成で、FIPS準拠である必要があります。NKPクラスターノードに使用するOSプラットフォームはRHELです。

OS イメージを適切に準備し、それを FIPS 準拠の NKP クラスター ノードとして展開するには、エンジニアは何をする必要がありますか？

- A. OS 自体が fips モードになっていることを確認します。
NKP イメージ ビルド操作を実行するときは、必ずオフライン fips オーバーライドを含めてください。
NKP クラスターのデプロイ操作を実行するときは、必ず `kubernetes` および `etcd` の FIPS バージョン参照を含めてください。
- B. OS 自体が fips モードになっていることを確認します。
NKP イメージ ビルド操作を実行するときは、オフライン fips と fips オーバーライドを必ず含めてください。
NKP クラスターのデプロイ操作を実行するときは、必ず `kubernetes` および `etcd` の FIPS バージョン参照を含めてください。
- C. OS 自体が fips モードになっていることを確認します。
NKP イメージ ビルド操作を実行するときは、オフライン fips と fips オーバーライドを必ず含めてください。

NKP クラスターのデプロイ操作を実行するときは、kubernetes、kubect、etcd の FIPS バージョン参照を必ず含めてください。

D. OS 自体が fips モードになっていることを確認します。

NKP クラスターのデプロイ操作を実行するときは、kubernetes、kubect、etcd の FIPS バージョン参照を必ず含めてください。

正解: ([正解を表示します](#))

エアギャップ環境で FIPS 準拠の NKP 展開を作成するには、次の手順を実行する必要があります。

* OS (RHEL) 自体が FIPS モードであることを確認します。

* イメージをビルドするときに、オフライン fips と fips オーバーライドの両方を含めて、イメージとコンポーネントが準拠してビルドされるようにします。

* クラスターをデプロイするときに、Kubernetes と etcd コンポーネントの両方に FIPS 固有の参照を含めます。

正確な抜粋:

FIPS 展開の場合、OS が FIPS モードであることを確認し、イメージ作成時にオフライン FIPS と FIPS オーバーライドの両方を含めることで、準拠したイメージと展開が確実に行われるようにします。参考:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - FIPS 環境での NKP の導入」NCP-CN 6.10 学習ガイド - FIPS コンプライアンスのベストプラクティス」

質問: 28

プラットフォームエンジニアは、プライマリサイトで災害が発生した場合でも永続的なデータを確実に利用できるように、本番環境のバックアップとリストアを行う任務を負っています。本番環境のバックアップとリストアのユースケースにはどのようなものが推奨されますか？

A. 保護ドメイン

B. ルーク セフ

C. 外部ストレージクラス

D. S3互換API

正解: ([正解を表示します](#))

NKPAコースでは、NKPのバックアップおよび復元ツールであるVeleroと統合されているため、本番環境のNKP環境でのバックアップおよび復元操作にはS3互換APIの使用を推奨しています。Veleroは、バックアップストレージの場所としてS3互換ストレージ (AWS S3、Nutanix Objects、MinIOなど)をサポートしており、ボリュームやクラスターリソースなどの永続データを災害復旧シナリオ中にバックアップおよび復元できます。このアプローチにより、クラウドネイティブのバックアップワークフローとの互換性が確保され、本番環境のユースケースにおいて拡張性と信頼性が向上します。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「NKP での本番環境のバックアップと復元には、S3 互換 API を備えた Velero を使用してバックアップを保存し、災害復旧時の永続的なデータ可用性を確保します」と記載されています。Nutanix 環境では、この目的で S3 互換 API を提供する Nutanix Objects がよく使用されますが、任意の S3 互換ストレージ (例オフサイト S3 バケット)を構成できます。

誤ったオプション:

* A. 保護ドメイン: 保護ドメインは、Kubernetes のバックアップ/リストア用ではなく、VM レベルのレプリケーション用の Nutanix AOS 機能です。

* B. Rook Ceph: Rook Ceph は NKP クラスターに永続ストレージを提供しますが、バックアップ ソリューションではありません。S3 ストレージを備えた Velero を使用してバックアップできます。

* C. 外部ストレージクラス: ストレージ クラスは、ボリュームのバックアップや復元方法ではなく、ボリュームのプロビジョニング方法を定義します。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、バックアップと復元のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、2 日目の操作に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> Velero ドキュメント: <https://velero.io>

質問: 29



プラットフォーム エンジニアが新しい NKP クラスターを作成しようとしていますが、図に示すようなエラーが発生しています。

このエラーの最も可能性の高い原因は何でしょうか？

- A. docker互換ランタイムが実行されていません
- B. Ansibleプレイブックでのフォーマット
- C. NKPバイナリへのアクセス許可
- D. inHelm チャートリポジトリが参照されました

正解: ([正解を表示します](#))

エラーメッセージ:

パイソン

コピー

クラスターの一覧表示に失敗しました: コマンド "docker ps -a --filter label=io.x-k8s.kind.cluster --format '{{.Label "io.x-k8s.

kind.cluster"}}'" がエラーで失敗しました: 終了ステータス 1

指定されたフィルターを使用してDockerコンテナの一覧を表示しようとした際にコマンドが失敗したことを示します。kindツール (ブートストラップクラスターの作成に使用)は、コンテナランタイムとしてDockerに依存しています。

根本的な原因:

Docker が実行されていない場合、または互換性のあるコンテナ ランタイム (containerd など) が利用できない場合、kind ツールは必要なコンテナを一覧表示したり、コンテナと対話したりすることができず、このエラーが発生します。

キーリファレンス:

ブートストラップクラスターを作成する際、kindツールはDockerがインストールされ、実行されている必要があります。Dockerが実行されていない場合、コンテナの一覧表示や操作時にエラーが発生します。参考:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - ブートストラップ クラスター作成の要件」NCP-CN 6.10 学習ガイド - ブートストラップ クラスター作成の依存関係」

質問: 30

あるテクノロジー企業は、アプリケーションのスケラビリティと管理性を向上させるため、インフラストラクチャをNKPに移行することを決定しました。初期導入は成功しましたが、運用チームは新たな課題に直面しています。これは、すべてのアプリケーションが正しく動作し、本番環境での問題を回避するために、HelmReleasesを検証する必要があるためです。HelmReleasesの正しいステータスを確認するには、どのコマンドを実行すればよいでしょうか？

- A. kubectl edit helmreleases -n \${PROJECT_NAMESPACE}
- B. kubectl で名前空間を取得する
- C. kubectl get helmreleases -n \${PROJECT_NAMESPACE}
- D. kubectl apply -f fluent-bit-overrides.yaml

正解: C ([コメントを發表する](#))

質問: 31

プラットフォームエンジニアが、インターネット接続を備えた新しいNKPクラスタをデプロイしています。現在、クラウド管理者とセキュリティ管理者が、NKP Kubernetesクラスタとコンテナレジストリ間の通信のセキュリティについて協議しています。エンジニアはオンプレミスのプライベートレジストリを構築することを提案しています。

エンジニアが NKP クラスタと Github (SaaS) 間の安全な接続を構成する代わりにプライベート レジストリを作成する必要がある最も重要な理由は何ですか？

- A. プライベート レジストリ ライセンスは NKP に含まれています。
- B. NKP には特定のレジストリ バージョンが必要です。
- C. プライベート レジストリはセキュリティとプライバシーを提供します。
- D. NKP はパブリック クラウドに接続できません。

正解: ([正解を表示します](#))

有効的な**NCP-CN**問題集はJPNTTest.com提供され、**NCP-CN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**NCP-CN**試験問題集を提供します。JPNTTest.com NCP-CN試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-CN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-CN-mondaishu> **111問、30%ディスカウント**、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 32

プラットフォームエンジニアがオンプレミスのNutanixクラスターとAmazon EKSにNKPをデプロイする予定です。このアーキテクチャにおけるブートストラップクラスターの機能は何ですか？

- A. プロビジョニングに必要なリソースを最小限に抑えることでコストを節約します。
- B. インフラストラクチャに依存しないプロビジョニングに Cluster API を使用します。
- C. Kubernetes のネットワーク要件を簡素化します。
- D. 単一のエン트리 ポイントからのセキュリティを強化します。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 33

クラウド エンジニアは、既存の AKS クラスタを新しくデプロイされた NKP 管理クラスターに接続したいと考えています。

エンジニアは、これらのタイプのクラスターを NKP に接続する際に特にどのような点を考慮する必要がありますか？

- A. kubeconfig ファイルは NKP Kommander ではそのままでは使用できないため、これらに対して別のサービス アカウントを作成する必要があります。
- B. AKS には kubelet がインストールされていません。そのため、AKS クラスタの各ノードをアタッチする前に、KIB 準備プロセスを実行する必要があります。
- C. AKSノードはコンテナランタイムとしてcontainerdを使用しません。そのため、AKSクラスタ内の各ノードにアタッチする前に、containerdをデプロイする必要があります。
- D. NKP に含まれる Cert-manager は、AKS クラスタに既定でデプロイされます。

正解: ([正解を表示します](#))

NKPA 6.10 のドキュメントでは、Kommander を使用して AKS (Azure Kubernetes Service) などの外部クラスターを NKP 管理クラスターに接続する場合、AKS が提供するデフォルトの kubeconfig は通常、直接使用できないと規定されています。これは、NKP がクラスターを適切に管理するために必要なサービスアカウントの詳細と権限が不足しているためです。したがって、推奨される必須のアプローチは、AKS で必要な権限を持つ別のサービスアカウントを作成し、このサービスアカウント用の kubeconfig ファイルを生成することです。

キー参照:

AKSなどの外部クラスターをインポートする場合、デフォルトのkubeconfigにはNKP Kommanderの適切な権限が含まれていない可能性があります。クラスター管理者権限を持つサービスアカウント用のカスタムkubeconfigを作成し、それを使用してクラスターをNKPに接続する必要があります。参考：
Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - 外部クラスターの接続」NCP-CN 6.10 学習ガイド - 外部クラスターの管理」

質問: 34

あるテクノロジー企業は、アプリケーションのスケラビリティと管理性を向上させるため、インフラストラクチャをNKPに移行することを決定しました。初期導入は成功しましたが、運用チームは新たな課題に直面しています。これは、すべてのアプリケーションが正しく動作し、本番環境での問題を回避するために、HelmReleasesを検証する必要があるためです。HelmReleasesの正しいステータスを確認するには、どのコマンドを実行すればよいでしょうか？

- A. kubectl で名前空間を取得する
- B. kubectl get helmreleases -n \${PROJECT_NAMESPACE}
- C. kubectl edit helmreleases -n \${PROJECT_NAMESPACE}
- D. kubectl apply -f fluent-bit-overrides.yaml

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

NKPはアプリケーションのデプロイメントにHelmとFluxを使用します。アプリケーションはHelmReleasesとして管理されます。HelmReleasesは、Helm Chartのデプロイメントを定義するカスタムリソースです。NKPAコースでは、管理者がHelmReleasesのステータスを確認するために、kubectlコマンドを使用してこれらのリソースを照会できることを説明しています。正しいコマンドはkubectl get helmreleases -n \${PROJECT_NAMESPACE}です。このコマンドは、指定されたプロジェクト名前空間内のすべてのHelmReleasesを一覧表示し、ステータス (Ready、Failedなど)と、Chartのバージョンや調整ステータスなどの詳細情報を表示します。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「NKP で HelmReleases のステータスを確認するには、kubectl get helmreleases -n <namespace> を使用して、Flux によって管理されているアプリケーション デプロイメントの現在の状態を表示します」と記載されています。このコマンドは、運用チームがアプリケーションが正しく実行されていることを確認し、本番環境における問題を特定するのに役立ちます。

誤ったオプション:

- * A. kubectl get namespaces: これは、HelmReleases やそのステータスではなく、名前空間を一覧表示します。
- * C. kubectl edit helmreleases -n \${PROJECT_NAMESPACE}: これは HelmRelease リソースを編集しますが、そのステータスは表示しません。
- * D. kubectl apply -f fluent-bit-overrides.yaml: これは、HelmRelease ステータスとは関係なく、Fluent Bit の構成を適用します。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、アプリケーション管理のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、2 日目の操作に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> Flux ドキュメント: <https://fluxcd.io/docs/components/helm>

質問: 35

プラットフォームエンジニアはNKP v2.12.x環境を管理しており、NKP Image Builder (NIB)を使用してカスタムイメージを作成しています。このタスクでエンジニアが使用できるディストリビューションは2つありますか？ 2つ選択してください。)

- A. ロッキーマシナックス
- B. フェドラ
- C. 無料
セントOS

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 36

開発チームは、効率的なログ記録システムを実装し、AWS S3 をストレージとして使用して、大量のログをスケーラブルに管理することを決定しました。チームは次の手順に従いました。

WORKSPACE_NAMESPACE 変数を、前の手順でコピーした名前空間に設定します。

ストレージ構成を更新するために ConfigMap をオーバーライドする構成を作成しました。

grafana-loki AppDeployment を更新して、構成のオーバーライドを適用しました。ただし、実装は失敗しました。AWS でログストレージを管理できるようにするには、チームは何をする必要がありますか？

- A. AWS にテナントを作成します。
- B. NKP 専用の新しい IAM ロールを設定します。
- C. 静的な AWS S3 認証情報を含むシークレットを作成します。
- D. AWS ストレージに対応する IP アドレスを設定します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 37

プラットフォームエンジニアがNIBまたはKIBプロセスを通じてNKP用のマシンイメージを準備しています。その目的は何ですか？

- A. NKP専用画像にタグを付ける
- B. クライアントが提供する強化スクリプトを使用して OS イメージを強化する
- C. NKP クラスタノードとして使用するための CAPI 準拠イメージの作成
- D. NKPノードへのアクセスを確保するためにNKP管理者用のカスタムユーザーアカウントを作成する

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 38

プラットフォームエンジニアは、NKP環境を管理するための安全で隔離された環境を構築する任務を負っています。この環境はインターネットにアクセスできませんが、将来的には追加のNKPクラスタを作成する必要があります。セキュリティチームは、この目的を達成するために要塞ホストの使用を推奨しています。このシナリオにおける要塞ホストの主な目的は何ですか？

- A. クラスタに関連する機密データを保存および管理します。
- B. NKP クラスタを作成および操作するための安全なポイントを提供します。
- C. NKP クラスタのロードバランサとして機能します。
- D. クラスタのファイアウォールとして機能し、すべての着信トラフィックをブロックします。

正解: [B \(コメントを發表する\)](#)

インターネットアクセスのないエアギャップ型のNKP環境において、要塞ホストは安全な管理に不可欠なコンポーネントです。NKPAコースでは、要塞ホストの主な目的は、NKPクラスタの作成と運用のための安全な拠点を提供することであると定義しています。要塞ホストはジャンプサーバーとして機能し、管理者は隔離された環境に安全にアクセスし、クラスタのデプロイメントを管理し、クラスタの作成、スケーリング、アップグレードなどの操作を、環境を外部の脅威にさらすことなく実行できます。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「[ダークサイト NKP 展開](#)において、要塞ホストは管理者が NKP クラスタを作成、管理、運用するための安全なエントリポイントとして機能し、外部ネットワークからの分離を保証します」と記載されています。要塞ホストは、SSH キーと NKP CLI などのツールを使用して構成され、クラスタ インフラストラクチャとの安全なやり取りを可能にします。

誤ったオプション:

* A. 機密データを保存および管理するため: 要塞ホストはストレージ システムではありません。その役割はアクセスと管理であり、データの保存ではありません。

* C. ロードバランサーとして機能する: 要塞ホストはロードバランシングを実行しません。その役割は、MetalLB やクラウドネイティブ ロードバランサーなどの Kubernetes コンポーネントによって処理されます。

* D. ファイアウォールとして機能する: 要塞ホストはセキュリティを強化しますが、ファイアウォールではありません。ファイアウォールはネットワークアーキテクチャ内の独立したコンポーネントです。

:
Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、ダーク サイト デプロイメントのセクション。
Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、NKP 展開の前提条件に関する章。
Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 39

ある企業はここ数年、クラウドネイティブ プラットフォームのモダナイゼーションを進めており、本番環境のNKPクラスター上で小規模な消費者サポート ユーティリティをいくつか実行してきました。開発クラスター上でシミュレートされたワークロードを用いた徹底的なテストとQAサイクルを経て、オンライン小売アプリケーションを本番環境に組み込む準備が整いました。パフォーマンスの観点からNKPクラスターを適切に拡張するための十分なシステムリソースは確保していますが、追加ワークロードによるNKPクラスター全体のシステムリソース使用率の傾向を数か月にわたって把握するために、十分なデータ量を確保するために、監視スタックのリソース設定を適切に拡張することも検討しています。NKPプラットフォーム アプリケーション コンポーネントの調整において、同社が最も注意すべき点はどれでしょうか？また、プラットフォーム エンジニアはそれをどのように調整すべきでしょうか？

- A. コンテナのリソース制限、メモリ設定、およびストレージを増やして、Prometheus のリソース設定を調整します。
- B. Fluent Bit デプロイメントのレプリカ数を調整し、NKP クラスターで使用できるストレージの量を増やします。
- C. Prometheus デプロイメントのレプリカ数を調整し、NKP クラスターで使用できるストレージの量を増やします。
- D. コンテナ リソースの制限、メモリ設定、およびストレージを増やして、Fluent Bit のリソース設定を調整します。

正解: [A \(コメントを发表する\)](#)

質問: 40

以前、EKS クラスターを NKP (Fleet Management) で管理するためにアタッチしました。現在、プラットフォームエンジニアはライセンス上の理由から、EKS クラスターを NKP から切断するよう指示されています。クラスターを切断した後、開発者は、EKS クラスターが NKP から正常にデタッチされたにもかかわらず、アプリケーションの変更が EKS クラスターにまだ反映されていることに気付きました。エンジニアはこの問題をどのように解決すべきでしょうか？

- A. EKS クラスターを強制的にデタッチします: `nkp detach cluster -c detached-cluster-name --force`
- B. 分離されたクラスターもNKPから削除する必要があります: `nkp delete cluster -c detached-cluster-name`
- C. 開発者のデプロイメント設定ファイルに不適切な設定が含まれている可能性があります。修正を依頼するか、AWSテクニカルサポートにお問い合わせください。
- D. 切り離されたクラスターの Flux インストールは、管理 Git リポジトリから手動で切断する必要があります: `kubectl -n kommmander-flux patch gitrepo management -p '{"spec":{"suspend":true}}' --type merge`

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Amazon EKS クラスターをフリート管理のために NKP に接続すると、NKP は GitOps の原則に基づき、Flux (GitOps オペレーター) を活用して、管理 Git リポジトリから接続されたクラスターにアプリケーションのデプロイメントと設定を同期します。NKPA コースでは、クラスターを NKP からデタッチすると NKP 管理プレーンから削除されますが、クラスター上の Flux インストールは Git リポジトリとの調整を継続する可能性があるため、デタッチ後もアプリケーションの変更が保持される可能性があることを説明しています。

これを解決するには、エンジニアはGitリポジトリの調整を一時停止することで、Fluxのインストールを手動で切断する必要があります。NKPAコースに記載されている正しいコマンドは、`kubectl -n kommmander-flux patch gitrepo management -p '{"spec":{"suspend":true}}' --type merge`です。このコマンドは、Fluxと管理Gitリ

ポジトリの同期を一時停止し、アプリケーションの更新を停止します。Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10スタディガイドには、NKPから外部クラスタをデタッチした後も、kommander-flux名前空間でkubectl patchを使用してGitRepoリソースを一時停止しない限り、Flux GitOpsオペレーターは変更を適用し続ける可能性があります。」と記載されています。誤ったオプション：

* A. EKS クラスタを強制的にデタッチする: --force フラグは nkp detach cluster コマンドの標準オプションではないため、強制デタッチでは Flux 調整の問題は解決されません。

* B. デタッチされたクラスタはNKPからも削除する必要があります: クラスタはすでにデタッチされているため、GitOpsの更新を停止するために削除する必要はありません。問題はNKPの状態ではなく、Fluxにあります。

* C. 開発者の構成に問題があるはずですが。問題は開発者の構成ではなく、NKPA コースで説明されているように、Flux の継続的な同期にあります。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、フリート管理と GitOps のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、クラスタのデタッチに関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> Flux ドキュメント: <https://fluxcd.io>

質問: 41

NKP の展開中に、プラットフォーム エンジニアはブートストラップに問題があることを示すエラーを受け取りました。

サポートとのトラブルシューティング中に、エンジニアがKUBECONFIGファイルが見つからないことに気付きました。エンジニアはどのようにしてブートストラップクラスタを再作成し、bootstrap-cluster.confというコンテキストファイルを作成すればよいのでしょうか？

A. nutanix ブートストラップを作成 --kubeconfig bootstrap-cluster.conf

B. kubectl ブートストラップを作成 --kubeconfig bootstrap-cluster.conf

C. nkp ブートストラップを作成 --kubeconfig bootstrap-cluster.conf

D. d2iq はブートストラップを作成します --kubeconfig bootstrap-cluster.conf

正解: ([正解を表示します](#))

NKPAコースでは、NKPクラスタのデプロイプロセスを詳細に解説します。このプロセスは、Cluster API (CAPI)コンポーネントを初期化するためのブートストラップクラスタの作成から始まります。ブートストラップクラスタは、対象のNKPクラスタのプロビジョニングを管理するために使用される一時的なKubernetesクラスタです。エラーが発生し、KUBECONFIGファイルが見つからない場合、エンジニアはブートストラップクラスタを再作成し、新しいKUBECONFIGファイルを生成する必要があります。

NKPAコースで指定されている正しいコマンドは、nkp create bootstrap --kubeconfig bootstrap-cluster.confです。nkp CLIは、NKPデプロイメントを管理するためのNutanix固有のツールであり、create bootstrapサブコマンドは、指定された名前 (bootstrap-cluster.conf)のKUBECONFIGファイルを生成すると同時に、ブートストラップクラスタを初期化します。Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10スタディガイドには、nkp create bootstrapコマンドは、CAPIベースのNKPデプロイメント用の一時的なブートストラップクラスタを作成するために使用されます。--kubeconfigフラグは、出力先のKUBECONFIGファイルを指定します。」と記載されています。誤ったオプション：

* A. nutanix create bootstrap --kubeconfig bootstrap-cluster.conf: NKPブートストラップを作成するためのnutanix CLIコマンドはありません。適切なツールはnkpです。

* B. kubectl create bootstrap --kubeconfig bootstrap-cluster.conf: kubectl は Kubernetes クラスタとのやり取りに使用され、ブートストラップクラスタの作成には使用されません。NKPA コースではこのコマンドはサポートされていません。

* D. d2iq create bootstrap --kubeconfig bootstrap-cluster.conf: D2iQ は独立した Kubernetes プラットフォームであり、その CLI は NKP デプロイメントには使用されません。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、NKP クラスタの構築に関するセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、ブートストラップ クラスターの作成に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 42

最近、一部の開発プラットフォームの信頼性がメモリ不足エラーの影響を受けて低下し、ポッドがクラッシュして保留状態のままになるという問題が発生しています。クラウドエンジニアは、様々なプラットフォーム環境から一元管理されたメトリクスを収集・レビューし、環境間の差異を特定して、これらのパフォーマンス問題の原因をより深く理解するという任務を負っています。この課題に対処するために、エンジニアはどのような対応をすべきでしょうか？

A. Fluentd と Fluent Bit を活用して、NKP で接続および管理されているクラスターの集中メトリクスを収集・表示します。次に、Thanos Query を設定し、設定されたメトリクスしきい値に基づいて監視およびアラートを送信します。

B. Fluentd と Fluent Bit を活用して、NKP が接続・管理するクラスターのメトリクスを収集・表示します。収集・表示したメトリクスを Grafana で可視化します。

C. Prometheus を利用して、NKP が接続および管理するクラスター上の集中メトリックを収集および表示します。

次に、Thanos Query を構成して、その中で構成されているメトリックしきい値に基づいてアラートを監視し、送信します。

D. Thanos を利用して、NKP が接続・管理するクラスターのメトリクスを収集・表示します。収集・表示したメトリクスを Grafana で可視化します。

正解: ([正解を表示します](#))

NKPAコースでは、接続されたクラスターと管理対象クラスター全体のメトリクスを収集・分析するためのNKPの監視スタックについて詳しく説明します。これは、メモリ不足エラーなどの問題のトラブルシューティングに不可欠です。エンジニアは、パフォーマンスの問題を特定するために、一元化されたメトリクスを収集し、アラートを設定する必要があります。適切なアプローチは、メトリクス収集にPrometheusを使用し、アラート生成にThanos Queryを使用することです (オプションC)。

* Prometheusを活用し、NKP接続および管理対象クラスターの集中メトリクスを収集・表示 :PrometheusはNKPのデフォルトのメトリクス収集ツールであり、プラットフォームアプリケーションとして導入されています。ワークスペース内のすべてのクラスターのノード、ポッド、サービスからメトリクス (CPU、メモリ使用量など)を収集し、分析のために一元化します。Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10スタディガイドには、「NKPではPrometheusが使用され、接続および管理対象クラスターから集中メトリクスを収集・表示することで、詳細なパフォーマンス分析が可能になります」と記載されています。これは、メモリ不足エラーの原因となっているメモリ使用量の違いを特定するのに最適です。

* Thanos Query を設定し、設定されたメトリックしきい値に基づいて監視およびアラートを送信する :NKP の監視スタックの一部である Thanos Query は、クラスター全体の Prometheus メトリックを集約し、統合されたクエリインターフェースを提供します。また、Alertmanager と統合し、設定されたしきい値 (例メモリ使用量 > 90%)に基づいてアラートを送信します。NKPA コースの注記 :「Thanos Query を使用して NKP クラスター全体のメトリックを監視し、Alertmanager でアラートを設定して、メモリ不足エラーなどのパフォーマンス問題をエンジニアに通知します。」この設定により、エンジニアは問題に積極的に対処できるようになります。

誤ったオプション:

* A & B. FluentdとFluent Bitを活用する :FluentdとFluent BitはNKPのロギングツールであり、メトリクスではなくログの収集に使用されます。メトリクスの収集にはPrometheusが必要です。

* D. Thanos を活用して一元的なメトリクスを収集・提示する: Thanos はメトリクスを直接収集するのではなく、長期ストレージとクエリ集約機能を提供することで Prometheus を拡張します。Prometheus が主要な収集ツールとなります。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、監視とメトリックのセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、2 日目の操作に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> Prometheus ドキュメント: <https://prometheus.io> Thanos ドキュメント: <https://thanos.io>

質問: 43

ある組織のプラットフォームエンジニアが南極で研究を行っています。エンジニアは、インフラが隔離された状態でNKPを展開するための要塞ホストを準備しています。インフラを出荷する前に、要塞ホストにどのプログラムがインストールされていることを確認する必要がありますか？

- A. awscli と nkp
- B. oc と kubectl
- C. oc と az
- D. kubectl と nkp

正解: ([正解を表示します](#))

このシナリオは、南極大陸の隔離された環境を想定しており、エアギャップ型のNKP展開を想定しています。この環境では、BastionホストがインターネットアクセスのないNKPクラスターの展開と管理のための主要な管理ポイントとして機能します。NKPAコースでは、このような環境でNKPの展開と管理を容易にするために、Bastionホストにインストールする必要がある必須ツールの概要を説明します。

必要なプログラムは kubectl と nkp です。

* kubectl: これは、Kubernetes クラスターと対話するために使用される Kubernetes コマンドライン ツールであり、クラスター リソースの管理、デバッグ、およびデプロイメント中およびデプロイメント後の構成の適用に不可欠です。

* nkp: NKP CLI (nkp) は、NKP クラスターのデプロイ、管理、スケーリングを行うための主要ツールです。これには、ブートストラップクラスターの作成、クラスターのデプロイ、プラットフォームアプリケーションの管理などが含まれます。エアギャップ環境では、nkp CLI はエアギャップバンドルを使用したデプロイコマンドの実行に不可欠です。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「エアギャップ NKP の展開では、展開プロセスを管理し、結果として得られる Kubernetes クラスターと対話するために、要塞ホストに kubectl と nkp CLI がインストールされていることを確認してください」と記載されています。これらのツールは、エンジニアが分離された環境で NKP を展開および運用するのに十分です。

誤ったオプション:

* A. awscli と nkp: awscli は AWS 環境に特有のものです。質問では AWS インフラストラクチャについて具体的に説明されていません。また、隔離された環境では、インターネットにアクセスできないため、awscli はあまり意味がありません。

* B. oc と kubectl: oc は OpenShift CLI であり、NKP のデプロイメントには使用されません。NKP では代わりに nkp CLI が使用されます。

* C. oc と az: az は Azure CLI であり、oc は OpenShift 用です。どちらも NKP のデプロイメントには関係ありません。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、エアギャップ展開の準備に関するセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、NKP 展開の前提条件に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 44

プラットフォーム エンジニアは NKP を導入し、その OOB データ ストレージ機能を利用したいと考えています。NKP 環境内でバックアップをサポートするには、エンジニアは何を有効にする必要がありますか？

- A. ボリューム iSCSI
- B. オブジェクト S3
- C. ミニIO
- D. ルーク セフ

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 45

CPU とメモリの制限が不十分で、需要が集中しているときにログの収集と処理に遅延が発生したため、開発チームはログ システムをより堅牢に最適化する必要がありました。

徹底的なパフォーマンス分析を行った結果、CPU 制限を 1 から 4 に、メモリを 1000Mi から 4Gi に増やすことを決定しました。

開発チームは、fluentd のカスタム リソース要求と制限値を使用してどの ConfigMap を実行する必要がありますか？

A. bash コピー

```
[nutanix@nkp-boot ~]$ cat <<EOF > configmap.yaml  
apiVersion: v1  
kind: ConfigMap  
metadata:  
  name: logging-operator-log-override  
  namespace: kommander  
data:  
  values.yaml: |  
    fluentd:  
      resources:  
        limits:  
          cpu: 4  
          memory: 1000Mi  
        requests:  
          cpu: 1  
          memory: 4Gi  
EOF
```

B. bash コピー

```
[nutanix@nkp-boot ~]$ cat <<EOF > configmap.yaml  
apiVersion: v1  
kind: ConfigMap  
metadata:  
  name: logging-operator-log-override  
  namespace: kommander  
data:  
  values.yaml: |  
    fluentd:  
      resources:  
        limits:  
          cpu: 1  
          memory: 1000Mi  
        requests:  
          cpu: 4  
          memory: 4Gi  
EOF
```

C. bash コピー

```
[nutanix@nkp-boot ~]$ cat <<EOF > configmap.yaml  
apiVersion: v1  
kind: ConfigMap  
metadata:  
  name: logging-operator-log-override  
  namespace: kommander  
data:  
  values.yaml: |  
    fluentd:  
      resources:  
        limits:  
          cpu: 4  
          memory: 4Gi  
        requests:  
          cpu: 4  
          memory: 4Gi  
EOF
```

D. bash コピー

```
[nutanix@nkp-boot ~]$ cat <<EOF > configmap.yaml  
apiVersion: v1  
kind: ConfigMap  
metadata:  
  name: logging-operator-log-override  
  namespace: kommander  
data:  
  values.yaml: |  
    fluentd:  
      resources:  
        limits:  
          cpu: 4  
          memory: 4Gi  
        requests:  
          cpu: 1  
          memory: 1000Mi  
EOF
```

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 46

管理者は、質問に示されているコマンドを使用して、ダーク サイト (インターネット接続なし) 環境に初期の AHV ベースの NKP クラスタを展開しようとしています。

nkp クラスタ nutanix を作成 \

--cluster-name=\$CLUSTER_NAME \

--control-plane-prism-element-cluster=\$PE_NAME \

--worker-prism-element-cluster=\$PE_NAME \

--control-plane-subnets=\$SUBNET_ASSOCIATED_WITH_PE \

--worker-subnets=\$SUBNET_ASSOCIATED_WITH_PE \

--control-plane-endpoint-ip=\$AVAILABLE_IP_FROM_SAME_SUBNET \

--csi-storage-container=~~\$~~ストレージコンテナ名 \

--endpoint=\$PC_ENDPOINT_URL \

--control-plane-vm-image=\$NAME_OF_OS_IMAGE_CREATED_BY_NKP_CLI \

--worker-vm-image=\$NAME_OF_OS_IMAGE_CREATED_BY_NKP_CLI \

--registry-url=\${REGISTRY_URL} \

--registry-mirror-username=\${REGISTRY_USERNAME} \

--registry-mirror-password=\${REGISTRY_PASSWORD} \

--kubernetes-service-load-balancer-ip-range \$START_IP-\$END_IP \

--自己管理型

デプロイメントのために追加する必要がある、不足している属性はどれですか？

- A. --registry-username
- B. --エアギャップ
- C. --registry-url
- D. --安全でない

正解: ([正解を表示します](#))

有効的な**NCP-CN**問題集はJPNTTest.com提供され、**NCP-CN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**NCP-CN**試験問題集を提供します。JPNTTest.com NCP-CN試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-CN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-CN-mondaishu> **111問、30%ディスカウント**、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 47

プラットフォームエンジニアは、NKPのエアギャップインストールを行う必要があります。この環境はインターネットアクセスなしで実行でき、アップデートを含め、完全に機能する必要があります。Dockerがインストールされており、NKPバンドルは要塞ホスト上に存在します。エンジニアがプロセスを開始するために最初に実行する必要があるコマンドは何ですか？

- A. nkp push bundle --bundle
- B. docker load -i konvoy-bootstrap-image-v2.12.0.tar
- C. tar -xzvf nkp-air-gapped-bundle_v2.12.0_linux_amd64.tar.gz
- D. nkp クラスタ Nutanix を作成

正解: ([正解を表示します](#))

エアギャップ環境のNKPインストールでは、エンジニアはまずNKPエアギャップバンドル (インターネットアクセスなしでのデプロイメントに必要なすべてのコンポーネント (コンテナイメージ、バイナリ、設定ファイルなど)を含むtarball)から始めます。NKPAコースでは、最初のステップとして、このバンドルを要塞ホストに展開し、その内容をインストールプロセスで利用できるようにすると指定されています。正しいコマンドは tar -xzvf nkp-air-gapped-bundle_v2.12.0_linux_amd64.tar.gz です。このコマンドはバンドルをディレクトリに展開し、コンテナイメージ、CLIツール、およびデプロイメントに必要なその他のリソースを表示します。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、**エアギャップ NKP インストールを開始するには、まず tar -xzvf <bundle-file>.tar.gz を使用して NKP エアギャップ バンドルをバスティオンホストで抽出し、インストールアーティファクトにアクセスします。**」と記載されています。抽出後、エンジニアはコンテナイメージのロード (例docker load を使用)と NKP CLI コマンドの実行を続行し、クラスタを展開して、すべての依存関係がローカルで利用可能であることを確認できます。

誤ったオプション:

- * A. nkp push bundle --bundle: これは有効なコマンドではありません。バンドルの内容を使用するには、まずバンドルを解凍する必要があります。
- * B. docker load -i konvoy-bootstrap-image-v2.12.0.tar: ブーストラップ イメージのロードは、このイメージ tarball を含むバンドルを抽出した後の後続のステップです。
- * D. nkp create cluster nutanix: このコマンドはクラスタを作成しますが、バンドルが抽出され、そのイメージがロードされるまで実行できません。

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、エアギャップ インストールのセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、NKP 展開の前提条件に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 48

ある組織のプラットフォームエンジニアは、認証にカスタム認証情報を使用しながら、NKP を AWS にデプロイする必要があります。クラスタのインストールをブートストラップする際に、エンジニアはどのフラグを使用すればよいですか？

- A. --with-aws-bootstrap-credentials=true

- B. --aws-access-key=<aws アクセス キー=""> --aws-secret-key=<aws シークレット キー=""></aws></aws></my-profile></my-profile>
- C. --aws-profile=<自分のプロファイル>

- D. --cloud-credentials=<my-profile>

正解: [C \(コメントを发表する\)](#)

質問: 49

管理者は Kubernetes プラットフォームとして NKP を導入する任務を負っており、次の要件を満たす最初のクラスタを導入する必要があります。

- * ダークサイト (インターネット接続なし)
- * Nutanix提供のRocky Linux VMイメージ
- * AHVベースのクラスタ導入を実現するための2つの前提条件は何ですか？ 2つ選択してください)

- A. Konvoy イメージビルダー
- B. エアギャップバンドル
- C. 既存のローカルコンテナレジストリ
- D. セルフマネージドAWSクラスタ

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanix Kubernetes Platform (NKP) は、インターネット接続のないダークサイト環境におけるオンプレミスの AHV ベースクラスタを含む、Nutanix インフラストラクチャ上の Kubernetes クラスタの導入と管理を簡素化するように設計されています。質問で指定された要件 (ダークサイト、Nutanix 提供の Rocky Linux VM イメージ、AHV ベースクラスタ) は、環境が自己完結型で、エアギャップ制約を満たすために Nutanix 固有のツールとリソースに依存する導入シナリオを示しています。

Nutanix Kubernetes Platform Administration (NKPA) コースによると、ダークサイト環境にNKPをデプロイするには、コンテナイメージ、依存関係、構成ファイルなど、必要なすべてのコンポーネントがインターネットアクセスなしで利用可能であることを保証するための特定の前提条件が必要です。このコースでは、このようなデプロイに不可欠なコンポーネントとして、エアギャップバンドルと既存のローカルコンテナレジストリの使用に重点を置いています。

* エアギャップバンドル (オプション B) :

* NKPAコースでは、ダークサイトへの導入向けにNutanixが提供するAir-Gapped Bundleについて説明しています。これは、インターネット接続なしでNKPクラスタを導入および管理するために必要なすべてのソフトウェアコンポーネント、コンテナイメージ、および依存関係を含む包括的なパッケージです。このバンドルには、Kubernetesバイナリ、NKPプラットフォームアプリケーション (Rook Ceph、監視ツールなど)、およびその他の必要なアーティファクトが含まれています。

* Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、「エアギャップ環境では、NKP クラスタを展開するために、コンテナイメージやインストールファイルなど、すべての依存関係を提供する Nutanix Air-Gapped Bundle が必要です」と明記されています。このバンドルは通常、インターネットに接続された環境の Nutanix サポートポータルからダウンロードされ、展開のためにダークサイトに転送されます。

* このバンドルにより、Kubernetesノードのベースオペレーティングシステムとして機能するNutanix提供のRocky Linux VMイメージに必要なすべてのソフトウェアコンポーネントをプロビジョニングできるようになります。NKPAコースではさらに、エアギャップバンドルはAHVベースのクラスタ向けにカスタマイズされており、Nutanixハイパーバイザーとの互換性が確保されていると説明されています。

* 既存のローカル コンテナ レジストリ (オプション C):

* ダークサイト環境では、NKPクラスターに必要なコンテナイメージを保存および配布するために、ローカルコンテナレジストリが必須です。NKPAコースでは、NKPがKubernetesコンポーネント、プラットフォームアプリケーション、およびユーザーワークロードのためにコンテナイメージに依存していることを強調しています。エアギャップ環境では、これらのイメージをDocker HubやQuayなどのパブリックレジストリからプルすることはできません。

これ。

* このコースでは、管理者にローカルコンテナレジストリ (Harbor、Nexus、またはNutanix管理のレジストリなど)を設定し、Air-Gapped Bundleに含まれるコンテナイメージをそこに配置する方法を指導します。Nutanix Cloud Bibleでは、この点について次のように強調しています。「エアギャップ環境では、Nutanix Air-Gapped Bundleの一部として提供される必要なすべてのイメージをホストするために、ローカルコンテナレジストリを事前に構成する必要があります。」

* ローカルコンテナレジストリは、Nutanixが提供するRocky Linux VMイメージ上で実行されるKubernetesノードが、クラスタのブートストラップと運用中に必要なイメージにアクセスできるようにします。NKPAコースでは、レジストリの設定とNKPデプロイメントプロセスへの統合に関するガイダンスを提供します。

誤ったオプション:

* Konvoy イメージビルダー (オプション A):

* Konvoy Image Builderは、D2iQのKonvoyプラットフォームに関連するツールで、Kubernetesデプロイメント用のカスタムマシンイメージを作成するために使用されます。Kubernetesノード用のイメージ構築に使用できますが、Nutanix固有のツールではなく、NKPデプロイメントの前提条件でもありません。NKPAコースおよびNCP-CN 6.10スタディガイドではKonvoy Image Builderについて言及されていません。これは、NKPがNutanixが提供するRocky Linux VMイメージ (AHVベースのクラスタ用に事前構成済み)を使用するためです。このオプションはNutanixエコシステムとは無関係です。

* セルフマネージド AWS クラスタ (オプション D):

* セルフマネージドAWSクラスタは、ダークサイトにおけるAHVベースのクラスタ上にNKPを展開する要件とは無関係です。設問では、クラウドベースのAWS環境ではなく、オンプレミスで稼働するNutanixのAcropolis HypervisorであるAHVベースのクラスタが指定されています。NKPAコースは、NKP展開におけるNutanixインフラストラクチャ (AHV、Prism Central)に重点を置いており、このシナリオではAWSはサポート対象プラットフォームとして含まれていません。この選択肢は展開環境と矛盾するため、誤りです。

デプロイメントコンテキスト:

* Nutanixが提供するRocky Linux VMイメージは、AHV上のNKPデプロイメント向けに最適化された、事前構成済みのオペレーティングシステムイメージです。NKPAコースでは、このイメージには、Nutanixインフラストラクチャ上でKubernetesノードを効率的に実行するために必要なカーネル設定、ドライバー、および構成が含まれていると説明されています。

* AHVベースのクラスタ要件は、Prism Centralを通じて管理されるNutanixハイパーバイザーを活用し、Kubernetesノードのプロビジョニングと管理を行うことを意味します。エアギャップバンドルとローカルコンテナレジストリにより、すべてのソフトウェアコンポーネントがダークサイトでも利用可能になり、NKPAコースのエアギャップデプロイメントのガイドラインに準拠しています。

参考文献:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、NKP 展開のための環境の準備に関するセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、エアギャップ展開に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> Nutanix サポートポータル、Air-Gapped Bundle ドキュメント:

<https://portal.nutanix.com> Nutanix Kubernetes プラットフォーム導入ガイド: <https://www.nutanix.com>

質問: 50

プラットフォームエンジニアは、NKPのエアギャップインストールを行う必要があります。この環境はインターネットアクセスなしで実行でき、アップデートを含め、完全に機能する必要があります。Dockerがインストールされており、NKPバンドルは要塞ホスト上に存在します。エンジニアがプロセスを開始するために最初に実行する必要があるコマンドは何ですか？

A. `nkp push bundle --bundle`

B. `nkp クラスタ Nutanix を作成`

- C. `docker load -i konvoy-bootstrap-image-v2.12.0.tar`
D. `tar -xzvf nkp-air-gapped-bundle_v2.12.0_linux_amd64.tar.gz`
正解: ([正解を表示します](#))

質問: 51

```
Refer to the exhibit.  
NUTANIX™  
[nutanix@nkp-boot ~]$ nkp get nodepools -c production -n kommander-default-workspace  
NODEPOOL          DESIRED          READY          KUBERNETES VERSION  
md-0              4                4              v1.29.9
```

現在、Nutanix クラスタは NKP クラスタと production という名前の本番環境 Kubernetes クラスタをホストしています。インフラ管理者は最近、新しい AI プロジェクトのために NVIDIA GPU を搭載したノードを 3 つ追加しました。そして今、プラットフォームエンジニアは本番環境 Kubernetes クラスタに GPU を搭載したワーカーを 3 つ追加するよう依頼されています。このタスクを達成するために、エンジニアはまずどのような手順を踏むべきでしょうか？

- A. 次のコマンドで GPU 対応の OS イメージを作成します:`textCollapseWrapCopy`
`nkp create image nutanix --gpu --gpu-name=${GPU_NAME} --cluster=${NUTANIX_CLUSTER_NAME} --endpoint=${NUTANIX_PC_ENDPOINT} --subnet=${NUTANIX_SUBNET} ubuntu-22.04`
B. GPU を備えたワーカーのノードプールを作成します:`textCollapseWrapCopy`
`nkp create nodepool nutanix -c $CLUSTER_NAME --vm-image $NAME_OF_GPU_OS_IMAGE_CREATED_BY_NKP_CLI --o yaml --subnets $NUTANIX_SUBNET_NAME --prism-element-cluster $NUTANIX_PRISM_ELEMENT_CLUSTER_NAME $NODEPOOL_NAME`
C. マルチインスタンス GPU (MIG) を構成する:`textCollapseWrapCopy`
`kubectl label nodes ${NODE} nvidia.com/mig.config=all-1g.6gb -overwrite`
D. GPU オペレーターを新しいワーカーに追加します:`textCollapseWrapCopy`
`cat <<EOF | kubectl apply -f -kind: Installationapps:nvidia-gpu-operator:enabled: truevalues: | toolkit:nodepool: md-0EOF`

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 52

FIPS 準拠ビルド機能にはどの NKP 層が必要ですか？

- A. 上級
B. エンタープライズ
C. スターター
D. プロ

正解: ([正解を表示します](#))

NKPA 6.10 のドキュメントによると、FIPS 準拠ビルド機能はエンタープライズレベルのライセンスでのみ利用可能です。これにより、NIST セキュリティ標準への準拠が保証され、Kubernetes クラスタスタック全体に強化された暗号化機能が提供されます。

ドキュメントからの正確な抜粋:

FIPS 準拠のビルド機能は NKP Enterprise 層に含まれており、厳格なセキュリティコンプライアンスが求められる環境への導入を可能にします。」参考：
Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - ライセンスと機能層」NCP-CN 6.10 学習ガイド - エンタープライズ層における FIPS コンプライアンス」

質問: 53

NKP クラスタへのユーザー認証を設定するために、プラットフォームエンジニアが従うべき手順はどれですか？

- A. ネイティブ NKP 認証を無効にし、Traefik を有効にして、ユーザーベースの ID プロバイダーへのコネクタを作成します。

- B. ユーザー ベースの ID プロバイダーへの Dex コネクタを作成します。
- C. ユーザー ベースの ID プロバイダーへの MetallB コネクタを作成します。
- D. Gatekeeper を有効にし、ユーザー ベースの ID プロバイダーへのコネクタを作成します。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 54

クラウド コストの消費を制御するために、必要に応じて需要を満たすように自動スケールが構成されています。ノードがスケールダウンされた場合の動作はどうなりますか？

- A. ノードはスタンバイのために電源オフの状態に変更されます。
- B. Kubernetes でノードが一時停止され、インフラストラクチャは現在のレベルでリソースを消費し続けます。
- C. ノードは休止状態に変更されます。
- D. ノードはインフラストラクチャ プロバイダーから CAPI 削除され、ハイパーバイザーからも実質的に削除されます。

正解: ([正解を表示します](#))

NKPA 6.10 のドキュメントとクラスタオートスケーラーの動作によると、NKP またはCAPIで管理される環境)でノードがスケールダウンされると、そのノードはインフラストラクチャプロバイダー (Sphere、AWS、Nutanix など)から削除されます。これにより、ノードはクラスタと、その基盤となるハイパーバイザーまたはクラウドプロバイダーの両方から実質的に削除され、リソースが解放され、コストが削減されます。

参照 :

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - クラスタ オートスケーラーのノード削除動作」NCP-CN 6.10 学習ガイド - オートスケーラーによるインフラストラクチャ リソースへの影響」

質問: 55

開発チームは、効率的なログ記録システムを実装し、AWS S3 をストレージとして使用して、大量のログをスケラブルに管理することを決定しました。チームは次の手順に従いました。

- * WORKSPACE_NAMESPACE 変数を、前の手順でコピーした名前空間に設定します。
- * ストレージ構成を更新するために ConfigMap をオーバーライドする構成を作成しました。
- * grafana-loki AppDeployment を更新して、構成のオーバーライドを適用しました。ただし、実装は失敗しました。AWS でログ ストレージを管理できるようにするには、チームは何をする必要がありますか？

- A. AWS ストレージに対応する IP アドレスを設定します。
- B. 静的な AWS S3 認証情報を含むシークレットを作成します。
- C. AWS にテナントを作成します。
- D. NKP 専用の新しい IAM ロールを設定します。

正解: **B** ([コメントを發表する](#))

NKPA 6.10 のドキュメントに記載されているように、ログ保存に外部ストレージ (AWS S3 など) を Loki で使用する場合、AWS 認証情報を安全に提供する必要があります。これには通常、静的な AWS 認証情報 (アクセスキー ID とシークレットアクセスキー) を含む Kubernetes Secret の作成が含まれます。これらの認証情報は、オーバーライド ConfigMap で参照され、Loki の S3 ストレージバックエンドを認証します。

ドキュメントからの主な参照:

「LokiがS3バケットにログを保存するには、AWS認証情報をKubernetesシークレットとして作成し、ストレージ設定で参照する必要があります。」参考 :

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - 「Loki 外部ストレージ構成」NCP-CN 6.10 学習ガイド - ログ機能を備えた外部ストレージバックエンドの使用」

質問: 56

プラットフォームエンジニアがオンプレミスのNutanixクラスターとAmazon EKSにNKPをデプロイする予定です。このアーキテクチャにおけるブートストラップクラスターの機能は何ですか？

- A. 単一のエン트리ポイントからのセキュリティを強化します。
- B. Kubernetes のネットワーク要件を簡素化します。
- C. プロビジョニングに必要なリソースを最小限に抑えることでコストを節約します。
- D. インフラストラクチャに依存しないプロビジョニングに Cluster API を使用します。

正解: ([正解を表示します](#))

NKPAコースでは、NKPデプロイメント、特にNutanixオンプレミスとAmazon EKSを組み合わせたハイブリッドアーキテクチャにおけるブートストラップクラスターの役割について説明します。ブートストラップクラスターは、デプロイメントプロセス中に作成される一時的なKubernetesクラスターで、対象のNKPクラスターのライフサイクルを管理するCluster API (CAPI)コンポーネントを初期化します。ブートストラップクラスターの主な機能は、Cluster APIを使用してインフラストラクチャに依存しないプロビジョニングを行うことです (オプションD)。

CAPIにより、NKPは異なるインフラストラクチャ (Nutanix AHV、AWS EKSなど) 間で、インフラストラクチャに依存しない一貫性のある方法でクラスターをプロビジョニングできます。ブートストラップクラスターは、CAPIコントローラー (Nutanixの場合はCAPX、AWSの場合はCAPAなど) を実行し、ターゲットクラスターの作成をオーケストレーションすることで、基盤となるインフラストラクチャの詳細を抽象化します。Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10スタディガイドには、「NKPのブートストラップクラスターは、Cluster APIを使用してインフラストラクチャに依存しないプロビジョニングを提供し、Nutanix AHVやAmazon EKSなどの多様な環境間で一貫性のあるクラスター作成を可能にします」と記載されています。これにより、オンプレミスのNutanixとクラウドベースのEKSの両方に、同じCAPIベースのワークフローでクラスターを展開できるようになります。

誤ったオプション:

- * A. 単一のエントリポイントからセキュリティを強化 :ブートストラップクラスターではなく、要塞ホストがセキュリティのための単一のエントリポイントを提供します。ブートストラップクラスターは一時的なものであり、プロビジョニングに重点を置いています。
- * B. Kubernetes のネットワーク要件を簡素化します。ネットワークは、ブートストラップクラスターではなく、ターゲット クラスターの CNI (Calico など) によって管理されます。
- * C. プロビジョニングに必要なリソースを最小限に抑えることでコストを節約します。ブートストラップ クラスターは一時的なものであり、コストに大きな影響を与えません。その目的はプロビジョニングであり、コスト節約ではありません。

:
Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、ブートストラップ クラスター機能のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、NKP クラスターの構築に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> クラスター API ドキュメント: <https://cluster-api.sigs.k8s.io>

質問: 57

ある企業が最近NKPを導入しました。プラットフォームエンジニアは既存のAmazon EKSへのアタッチを依頼されました。それに応じてワークスペースとプロジェクトが作成され、リソース要件も満たされました。EKSクラスターを準備するために、エンジニアはまず何をする必要がありますか？

- A. EKS 構成に従って ConfigMap を構成します。
- B. クラスター管理者権限を持つサービス アカウントを作成します。
- C. EKS クラスターに接続するように HAProxy を構成します。
- D. EKS クラスターに cert-manager をデプロイします。

正解: ([正解を表示します](#))

既存の Amazon EKS クラスターを NKP に接続してフリート管理を行うには、クラスターを NKP の管理プレーンに統合する必要があります、そのためには特定の準備手順が必要です。NKPA コースでは、最初の手順として、EKS クラスターにクラスター管理者権限を持つサービスアカウントを作成することが説明されています。このサービスアカウントは、NKP がクラスターを認証および管理するために使用され、モニタリング、スケーリング、アプリケーションのデプロイなどの操作を可能にします。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドでは、Amazon EKS などの外部 Kubernetes クラスターを NKP に接続するには、クラスター管理者ロールバインディングを持つサービスアカウントを作成し、NKP がクラスターの API サーバーとやり取りできるようにする必要があります」と説明されています。このサービスアカウントには、NKP がリクエストの認証に使用するトークンが設定されます。NKPA コースでは、サービスアカウントの作成、クラスター管理者 ClusterRole の割り当て、NKP 統合用のトークンの生成など、詳細な手順が説明されています。この手順は、NKP が EKS クラスターを管理するために必要な権限を持つために不可欠です。

誤ったオプション:

* A. EKS 構成に応じて ConfigMap を構成する: ConfigMap は特定の構成に使用できますが、EKS クラスターをアタッチするための最初のステップではありません。NKPA コースでは、サービスアカウントの作成を優先します。

* C. EKS クラスターに接続するために HAProxy を構成する: HAProxy はロードバランサーであり、EKS クラスターを NKP に接続するためには必要ありません。EKS は AWS ネイティブのロードバランサーを使用し、NKP は Kubernetes API を介して接続します。

* D. EKS クラスターに cert-manager をデプロイする: cert-manager は証明書管理に使用され、EKS クラスターへの接続の前提条件ではありません。NKPA コースでは、必須の手順として記載されていません。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、フリート管理のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、外部クラスターの接続に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> Amazon EKS ドキュメント: <https://docs.aws.amazon.com/eks>

質問: 58

NKP管理下のクラスターでは、デフォルトで毎日フルクラスターバックアップが実行されています。しかし、Victory Financeチームは、アプリケーションのバックアップを1日4回実施するよう要求しています。ユーザーグループはvictory-finance-apps NKPワークスペースに割り当てられ、アプリケーションはKubernetesネームスペースvictory-financeにデプロイされています。

チームのアプリケーションバックアップをスケジュールする手順は何ですか？

A. NKP UI にアクセスし、victory-finance-apps NKP ワークスペースに切り替えます。アプリケーションメニューパネルをクリックして、Velero を選択します。特定の NKP 管理対象クラスター (その NKP ワークスペース内のすべてのクラスターではありません) のクラスター レベルで Velero アプリケーション構成を編集します。バックアップ頻度を 1 日 4 回に設定します。

B. NKP UI にアクセスし、victory-finance NKP 名前空間に切り替えます。アプリケーションメニューパネルをクリックして、Velero を選択します。特定の NKP 管理対象クラスター (その NKP ワークスペース内のすべてのクラスターではありません) のクラスター レベルで Velero アプリケーション構成を編集します。バックアップ頻度を 1 日 4 回に設定します。

C. Velero CLI をインストールします。Velero CLI を使用して、次のパラメータを含むバックアップスケジュールを作成します:- バックアップ名-バックアップする NKP ワークスペース-バックアップ頻度 (6 時間ごと)- 管理対象 NKP クラスターの kubeconfig

D. Velero CLI をインストールします。Velero CLI を使用して、次のパラメータを含むバックアップスケジュールを作成します:- バックアップ名-バックアップする Kubernetes 名前空間-バックアップ頻度 (6 時間ごと)- 管理対象 NKP クラスターの kubeconfig

正解: **D** ([コメントを发表する](#))

質問: 59

Nutanix プロビジョニング方式 (CAPX) を使用して NKP を展開する場合、サポートされる OS プラットフォームは何ですか？

- A. CentOS と Rocky Linux
- B. Rocky Linux と Ubuntu
- C. Flatcar、Rocky Linux、Ubuntu
- D. CentOS と Ubuntu

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

NKPAコースでは、Nutanixプロビジョニングメソッド (CAPX) を使用して導入されたNKPクラスターでサポートされるオペレーティングシステムを指定します。CAPXは、Cluster API for Nutanix (CAPX) を活用してNutanix AHV上にクラスターをプロビジョニングします。CAPXでサポートされるOSプラットフォームはRocky LinuxとUbuntuです。これらのディストリビューションは、NutanixインフラストラクチャとKubernetesの要件に合わせてテストおよび最適化されています。

Rocky Linuxは、2021年にCentOS 8のサポートが終了した後、Nutanixが採用したCentOSの代替OSであり、安定したエンタープライズグレードのOSを提供しています。Ubuntu、特に20.04や22.04などのLTSバージョンは、KubernetesおよびNutanix AHVとの互換性により広くサポートされています。Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 Study Guideには、「Nutanixプロビジョニング方式 (CAPX) を使用してNKPを展開する場合、サポートされるOSプラットフォームはRocky LinuxとUbuntuであり、Nutanix AHVおよびKubernetesとの互換性が確保されます」と記載されています。これらのOSイメージは通常、kubeadmやcontainerdなどの必要なコンポーネントを含むようにNKP Image Builder (NIB) を使用して準備されます。

誤ったオプション:

- * A. CentOS と Rocky Linux: CentOS 8 は 2021 年以降サポートされなくなり、Nutanix は Rocky Linux に移行しました。
- * C. Flatcar、Rocky Linux、Ubuntu: Flatcar Container Linux は、NKP 展開の CAPX でサポートされている OS ではありません。
- * D. CentOS および Ubuntu: 前述のとおり、CentOS はサポートされていません。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、CAPX を使用した Nutanix プロビジョニングのセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、NKP 展開の前提条件に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: **60**

プラットフォームエンジニアは、NKP管理ノードとワーカーノードのデプロイメント用のカスタムイメージを構築する任務を負っています。エンジニアは、これらのイメージを作成する際に適切なパッケージバージョンが使用されていることを確認する必要があります。セキュリティチームが承認したKubernetesのバージョンは1.30.5、containerdのバージョンは1.7.22のみです。エンジニアは、カスタムイメージの構築時にこれらのバージョンが使用されていることをどこで確認すればよいでしょうか？

- A. terraform/vars/default/terraform.tfvars
- B. ansible/group_vars/all/defaults.yaml
- C. config/pulmi/vars/pulumi.kib.config
- D. カスタムイメージの.envファイル

正解: ([正解を表示します](#))

質問: **61**

クラウド エンジニアは NKP 環境を管理し、NKP クラスター ノードとなるマシン イメージを準備しています。

デフォルトのノード準備プロセスに関する記述はどれですか？

- A. Ansible は、OS イメージが NKP を実行できるかどうかを検証するために使用されます。

- B. シェル スクリプトは、NKP ノードとして使用するために OS イメージを強化するために使用されます。
- C. Goss は、OS イメージを CAPI 準拠にして NKP ノードとして使用するために使用されます。
- D. Goss は、OS イメージが NKP を実行できるかどうかを検証するために使用されます。

正解: **D** ([コメントを发表する](#))

有効的な**NCP-CN**問題集はJPNTTest.com提供され、**NCP-CN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**NCP-CN**試験問題集を提供します。JPNTTest.com NCP-CN試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-CN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-CN-mondaishu> **111問、30%ディスカウント**、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: **62**

ある企業が最近NKPを導入しました。プラットフォームエンジニアは既存のAmazon EKSへのアタッチを依頼されました。それに応じてワークスペースとプロジェクトが作成され、リソース要件も満たされました。EKSクラスターを準備するために、エンジニアはまず何をする必要がありますか？

- A. EKS クラスターに cert-manager をデプロイします。
- B. クラスター管理者権限を持つサービス アカウントを作成します。
- C. EKS 構成に従って ConfigMap を構成します。
- D. EKS クラスターに接続するように HAProxy を構成します。

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

質問: **63**

NKPデプロイメント用のプライベートレジストリがあり、会社はNKP Ultimateライセンスを保有しています。プラットフォームエンジニアはPodmanツールを使用しており、既にログインしています。エンジニアは、NKPカタログアプリケーションを含むプライベートレジストリを送信する必要があります。エンジニアはどのようなコマンドを使用すべきでしょうか？

- A. ポッドマン ロード -i ./container-images/nkp/catalog-applications-image-bundle-v2.12.0.tar
- B. nkp push bundle --bundle ./container-images/nkp/catalog-applications-image-bundle-v2.12.0.tar --to-registry=\${REGISTRY_URL} --to-registry-username=\${REGISTRY_USERNAME} --to-registry-password=\${REGISTRY_PASSWORD}
- C. nkp apply bundle -f ./container-images/nkp/catalog-applications-image-bundle-v2.12.0.tar --to-registry=\${REGISTRY_URL} --to-registry-username=\${REGISTRY_USERNAME} --to-registry-password=\${REGISTRY_PASSWORD}
- D. docker load -i ./container-images/nkp/catalog-applications-image-bundle-v2.12.0.tar

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

質問: **64**

ある企業では、次のような複数のマイクロサービスで構成される新しい Web アプリケーションを開発しています。

* 認証サービス

* ユーザー管理サービス

* 決済処理サービス 各マイクロサービスは異なるチームによって開発されており、テストと開発には独立した環境が必要です。開発とテストを円滑に進めるため、チームはNKP内に専用のワークスペースを作成することにしました。この新しい環境の構築を開始するには、チームは何をすべきでしょうか？

- A. クラスターの選択から、クラスターの追加を選択します。
- B. 上部のメニュー バーにあるワークスペース選択ドロップダウン リストから、[ワークスペースの作成] を選択します。

C. 上部のメニューバーにあるワークスペース選択ドロップダウン リストから、[ワークスペースの追加] を選択します。

D. インフラストラクチャ プロバイダーの管理選択ドロップダウン リストから、インフラストラクチャ プロバイダーの追加を選択します。

正解: [B \(コメントを發表する\)](#)

Nutanix Kubernetes プラットフォーム (NKP) は、ワークスペースを使用して、さまざまなチームまたはプロジェクトに分離された環境を提供し、各チームが独自のクラスター、アプリケーション、およびリソースを個別に管理できるようにします。

NKPA コースによれば、新しいワークスペースを作成することは、このシナリオのマイクロサービスに必要なマルチテナントおよび分離された開発環境をサポートするための重要な Day 2 操作です。

このコースでは、新しいワークスペースを作成するには、ユーザーがNKPユーザーインターフェース (UI)の上部メニューバーにあるワークスペース選択ドロップダウンリストに移動し、「ワークスペースの作成」を選択する必要があると指定されています。このアクションにより、管理者がワークスペース名、説明、および関連リソース (例:

(例クラスター、ユーザー、ポリシーなど)。Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、NKP で新しいワークスペースを作成するには、UI のワークスペース選択ドロップダウンに移動し、「ワークスペースの作成」を選択して、チームまたはプロジェクト用の分離された環境を構成します」と記載されています。このプロセスにより、各マイクロサービスチームが開発およびテスト用の独自の分離された環境を持ち、アクセスが特定のワークスペースに制限されます。

誤ったオプション:

* A. クラスターの選択から「クラスターの追加」を選択します。クラスターを追加すると、新しいワークスペースではなく、既存のワークスペース内に新しい Kubernetesクラスターが作成されます。NKPAコースでは、クラスターの作成とワークスペースの作成を区別しています。

* C. 上部のメニューバーにあるワークスペース選択ドロップダウン リストから、[ワークスペースの追加] を選択します。NKPA コースと UI では、標準の用語として [ワークスペースの追加] ではなく [ワークスペースの作成] が使用されます。

* D. インフラストラクチャ プロバイダーの管理選択ドロップダウン リストから、インフラストラクチャ プロバイダーの追加を選択します。このオプションは、ワークスペースを作成するためのものではなく、NKP のインフラストラクチャ プロバイダー (AWS、vSphere など) を構成するためのものです。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、ワークスペース管理のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、2 日目の操作に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 65

エアギャップされた事前プロビジョニングされたサーバーに NKP クラスターを展開する場合、Konvoy Image Builder を使用して、サーバーを NKP クラスターノードになるように準備します。

この準備プロセスの一部として、konvoy-image アップロード コマンドは何を実行しますか?

A. このコマンドは、コンテナ ランタイム、OS バンドル、Kubernetes コンポーネントなどの成果物をサーバーにアップロードします。これにはオプションの OS 強化スクリプト (クライアントが提供する必要があります) も含まれます。

B. このコマンドは、サーバー上に konvoy ユーザー ID を作成し、コンテナ ランタイム、OS バンドル、Kubernetes コンポーネントなどの成果物をサーバーにアップロードするために使用されます。

C. このコマンドは、コンテナ ランタイム、OS バンドル、Kubernetes コンポーネントなどの成果物をサーバーにアップロードします。

D. このコマンドは、OS 強化スクリプトをサーバーにアップロードするために使用されます (クライアントが提供する必要があります)。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 66

プラットフォームエンジニアが既存のKubernetesクラスターをNKPに接続しようとしていますが、特定のKubernetes Amazon EKSクラスターでアプリケーションのデプロイ時にエラーが発生しています。これらのエラーは永続ボリュームに関連しています。

何が問題なのでしょう、そしてエンジニアは何ができるのでしょうか？

- A. ストレージプライアンスに問題が発生しています。ストレージエンジニアに連絡して調査してもらってください。
- B. EKSクラスターに接続できる互換性のあるストレージがありません。互換性のあるストレージを要求してください。
- C. デフォルトの StorageClass はありません。ストレージクラスを確認し、1 つだけをデフォルトとして設定する必要があります。
- D. ConfigMap に誤った設定がある可能性があります。NKP の要件に合わせて調整する必要があります。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

フリート管理のために Amazon EKS クラスターを NKP に接続すると、アプリケーションのデプロイ中に永続ボリューム (PV) エラーが発生する場合、多くの場合、ストレージ設定に問題があることが示唆されます。NKPA コースでは、よくある原因として、デフォルトの StorageClass が存在しないことが挙げられます。Kubernetes では、PersistentVolumeClaims (PVC) が指定されていない場合に、PV を自動的にプロビジョニングするためにデフォルトの StorageClass が必要です。デフォルトがないと、アプリケーションは PVC をバインドできず、デプロイエラーが発生します。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、アタッチされた EKS クラスターでは、永続ボリュームの動的プロビジョニングをサポートするようにデフォルトの StorageClass が設定されていることを確認してください。既存の StorageClass を確認し、storageclass.kubernetes.io/is-default-class アノテーションを使用して 1 つをデフォルトとして設定してください。」と記載されています。エンジニアは `kubectl get storageclass` を実行して利用可能な StorageClass を一覧表示し、その構成を確認し、`kubectl patch storageclass <name> -p '{"metadata": {"annotations":` でパッチを適用して 1 つをデフォルトとして設定する必要があります。

`{"storageclass.kubernetes.io/is-default-class": "true"}}'`。EKS では、デフォルトの StorageClass は通常、Amazon EBS (gp2 や gp3 など) によってサポートされます。

誤ったオプション:

- * A. ストレージプライアンスに問題が発生しています。これは、PVエラーでは示されないハードウェアの問題であると考えられます。NKPAコースでは、まずKubernetesの構成を確認することを推奨しています。
- * B. 互換性のあるストレージがない: EKS は NKP と互換性のある EBS と EFS をサポートしています。問題は互換性ではなく、構成にある可能性があります。
- * D. ConfigMapの設定ミスの可能性があります。ConfigMapはPVプロビジョニングとは直接関係ありません。NKPAコースでは、PVエラーの原因としてStorageClassの問題が指摘されています。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、フリート管理のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、ストレージ構成の章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> Amazon EKS ストレージドキュメント:

<https://docs.aws.amazon.com/eks>

質問: 67

QUESTION TO THE EXPERT



```
ivan@laptop-GNCR58:~/nkp-v2.12.8/cli$ ./nkp create bootstrap
Creating a bootstrap cluster
failed to create bootstrap cluster: failed to pull image 'nutanix/nutanix-bootstrap:v2.12.8': command 'docker pull nutanix/nutanix-bootstrap:v2.12.8' failed with
error: exit status 1
ivan@laptop-GNCR58:~/nkp-v2.12.8/cli$
```

プラットフォームエンジニアは、エアギャップ環境にNKPクラスタを展開する準備をしています。NKPクラスタは、CAPI Nutanixプロビジョナー (CAPX)を使用してNutanixインフラストラクチャ上に展開されます。エンジニアはまずブートストラップクラスタを作成し、次にLinuxエンジニアリングチームがPrism Centralで提供したUbuntu 22.04 OSイメージをNIB-prepすることにしました。その後、エンジニアはNKPクラスタを展開します。

しかし、ブートストラップクラスタ作成の最初のステップで、エンジニアは図に示すようなエラーを受け取りました。原因は何でしょうか？

- A. CAPI プロビジョニング方法は、コマンド `nkp create bootstrap nutanix` の一部として指定する必要があります。
- B. ブートストラップ クラスタを作成する前に、ブートストラップ クラスタ イメージをロードする必要があります。
- C. ブートストラップを作成する前に、Ubuntu 22.04 OS イメージを NIB で準備する必要があります。
- D. `nkp create bootstrap` コマンドは、`root` として実行する必要があります。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

この図は、エアギャップ環境で`nkp create bootstrap`コマンドを使用してブートストラップクラスタを作成中に発生したエラーを示しています。NKPAコースでは、ブートストラップクラスタとは、ターゲットのNKPクラスタをプロビジョニングするためにCluster API (CAPI)コンポーネントを初期化するために使用される一時的なKubernetesクラスタであると説明されています。

エアギャップ環境では、パブリック レジストリからリソースを取得するためのインターネット アクセスがないため、コンテナ イメージを含む必要なすべてのリソースがローカルで利用できる必要があります。

このエラーの最も可能性の高い原因は、ブートストラップクラスタを作成する前にブートストラップクラスタイメージをロードする必要があることです (オプションB)。コースでは、エアギャップデプロイメントでは、`nkp create bootstrap`を実行する前に、ブートストラップクラスタイメージ (通常はCAPIで使用されるkindまたはk3sイメージ)をローカルコンテナレジストリまたはBastionホストに事前にロードしておく必要があると指定されています。このイメージは、Nutanixが提供するAir-Gapped Bundleの一部であり、NKPデプロイメントに必要なすべてのコンテナイメージが含まれています。このイメージを事前にロードしないと、必要なイメージをプルできず、`nkp create bootstrap`コマンドは失敗します。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、エアギャップ NKP デプロイメントでは、`nkp create bootstrap` を実行する前に、ブートストラップ クラスタ イメージ (例kindest/node)がローカル レジストリまたはホストにロードされていることを確認してください。このコマンドは、一時クラスタを作成するためにこのイメージを必要とするためです。」と記載されています。エンジニアは、エアギャップ バンドルからブートストラップ イメージを抽出し、`docker load`などのツールを使用してロードし、ブートストラップ プロセス中にアクセスできるようにローカル レジストリを構成する必要があります。

誤ったオプション:

- * A. CAPI プロビジョニング メソッドは、`nkp create bootstrap nutanix` として指定する必要があります。`nkp create bootstrap` コマンドでは、この段階では `nutanix` のようなプロビジョニング メソッドは必要ありません。プロバイダー (例: Nutanix の場合は CAPX) は、ブートストラップの作成時ではなく、実際のクラスタの作成時 (`nkp create cluster`) に指定されます。
- * C. Ubuntu 22.04 OS イメージは、ブートストラップを作成する前に NIB で準備する必要があります。Ubuntu 22.04 イメージは、ターゲットの NKP クラスタ ノード用であり、ブートストラップクラスタ用ではありません。ブートストラップクラスタでは、事前に構築されたイメージ (例kind)が使用されます。このイメージの NIB 準備は、後の手順で行います。
- * D. `nkp create bootstrap` コマンドは `root` 権限で実行する必要があります。一部のコマンドでは昇格権限が必要な場合がありますが、NKPA コースでは `nkp create bootstrap` を `root` 権限で実行する必要があるとは規定されていません。このエラーは、エアギャップ環境でイメージが欠落していることに関連している可能性が高いです。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、エアギャップ環境でのブートストラップ クラスタ作成のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、エアギャップ展開に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com> クラスタ API ドキュメント: <https://cluster-api.sigs.k8s.io>

プラットフォームエンジニアが、Nutanix AHVとAWSの複数のNKPクラスターにカスタムOSイメージをデプロイしたいと考えています。カスタムイメージの作成とそれぞれのイメージリポジトリへの配置を容易にするためにバンドルされている2つのツールはどれですか？

- A. Nutanix イメージビルダー
- B. アンシブル
- C. テラフォーム
- D. Konvoy イメージビルダー

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 69

STEP TO THE EXHIBIT.

```
apiVersion: workspaces.kommander.mesosphere.io/v1alpha1
kind: Project
metadata:
  name: My-Project-Name
  namespace: my-project-k8s-namespace-name
spec:
  workspaceRef:
    name: myworkspace
  namespaceName: myworkspace-di3tx
  placement:
    clusterSelector:
      matchLabels:
```

プロジェクトを作成した後、新しいソフトウェア リリースが両方の環境に自動的に展開されるようにするには、管理者は何を構成する必要がありますか？

- A. プロジェクトの秘密
- B. 継続的インテグレーション (CI)
- C. プロジェクト構成マップ
- D. デプロイメントの続行 (CD)

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 70

Enter the command output.



```
nutanix@nkp-boot ~]$ nkp get nodepools -c demo -n kommander-default-workspace
NODEPOOL DESIRED READY KUBERNETES VERSION
demo-0    10     10     v1.29.9

nutanix@nkp-boot ~]$ kubectl get nodes --kubeconfig=demo.conf
NAME                                STATUS ROLES           AGE     VERSION
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-24rgz        Ready  <none>             127m    v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-6cmwz        Ready  <none>             22h     v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-9hkgd        Ready  <none>             127m    v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-dqzlx        Ready  <none>             127m    v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-j45lw        Ready  <none>             127m    v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-nbbjj        Ready  <none>             127m    v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-r5jdd        Ready  <none>             127m    v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-rgc2s        Ready  <none>             22h     v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-swtfd        Ready  <none>             127m    v1.29.9
```

プラットフォームエンジニアは、ワークロードのキャパシティ制約のため、NKP Pro デモクラスタを拡張する必要があります。デモクラスタには、ライセンスの観点から 150 個の vCPU が利用可能です。各ワーカーノードには 8 個の vCPU、各コントロールプレーンノードには 4 個の vCPU が利用可能です。

デモ クラスタを拡張し、ライセンスに準拠し続けるために有効な 2 つのオプションはどれですか。(2 つ選択してください。)

- A. 追加のコントロール プレーンを 6 つ追加します。
- B. 元のワーカー ノードプールを最大 8 ノードまで拡張します。
- C. ノードあたり 8 個の vCPU を持つ 10 個のノードで構成される新しいワーカー ノードプールを作成します。
- D. 元のワーカーノードプールを最大4ノード拡張し、次のノードで構成される新しいワーカーノードプールを作成します。
ノードあたり 4 つの vCPU を備えた 6 つのノード。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

NKPA 6.10のドキュメントによると、NKPクラスタのライセンスは、すべてのノード (ワーカーとコントロールプレーン)に割り当てられたvCPUの合計数によって制限されます。このシナリオでは、クラスタの最大vCPU数は 150 個の vCPU が利用可能です。

既存の出力には、それぞれ 8 個の vCPU (10×8=80 個の vCPU) を備えた 10 個のワーカー ノードと、それぞれ 4 個の vCPU (3×4=12 個の vCPU) を備えた 3 個のコントロール プレーン ノードが表示されています。

* 現在の vCPU 使用量: 80 + 12 = 92 vCPU。

* 残りの vCPU: 150 - 92 = 58 vCPU。

オプションA:

6 つのコントロール プレーン ノード (6×4 = 24 vCPU) を追加します。

これにより、コントロールプレーンは合計9つ (既存の3つと新規の6つ)に増えます。コントロールプレーンノードは 9×4=36 個の vCPU。

ワーカーノードは 80 vCPU のままです。

合計 vCPU 使用量: $36 + 80 = 116$ vCPU (それでも 150 vCPU 未満)。

しかし、一般的な NKP 構成において 9 つのコントロールプレーンを持つことは稀であり、また不要です。NKPA および NCP-CN のベストプラクティスでは、HA 構成ではコントロールプレーンを 3 つまたは 5 つ以下に抑えることが推奨されています。したがって、これは技術的には可能ですが、推奨または標準的な方法ではありません。そのため、選択されません。

オプション B:

既存のワーカー ノードプールを 8 ノード ($8 \times 8 = 64$ vCPU) 拡張します。

これにより、現在の 92 個の vCPU に 64 個の vCPU が追加されます。

$92 + 64 = 156$ vCPU # がライセンス制限を超えています。

訂正: 質問では「最大 8 ノードまで拡張する」と指定されているため、拡張できるのは 7 ノード ($7 \times 8 = 56$ vCPU) のみです。

$92 + 56 = 148$ vCPU # ライセンス制限内。

したがって、最大 7 ノードまでの拡張が有効です。

オプション C:

10 個のノード ($10 \times 8 = 80$ 個の vCPU) を持つ新しいワーカー ノードプールを作成します。

これにより、既存の 92 個の vCPU に 80 個の vCPU が追加されます。

$92 + 80 = 172$ vCPU # は 150 vCPU のライセンス制限を超えています。

無効です。

オプション D:

元のワーカー ノードプールを最大 4 ノード ($4 \times 8 = 32$ vCPU) = +32 vCPU まで拡張します。

4 つの vCPU/ノードを持つ 6 ノードの新しいノードプールを追加します ($6 \times 4 = 24$ vCPU) = +24 vCPU。

合計増加数: $32 + 24 = 56$ vCPU。

合計 vCPU 使用量: $92 + 56 = 148$ vCPU # (150 vCPU 制限内)。

したがって、有効です。

抜粋参照:

* NKPA 6.10 - クラスターのサイズ設定とライセンス」

* Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) - ライセンスに関する考慮事項

「すべてのノード (コントロールプレーンとワーカー) の vCPU の合計数は、NKP デプロイメントのライセンスされた vCPU 容量を超えてはなりません。」これは、オプション B と D が、ライセンス制約に準拠しながらクラスターを拡張するための 2 つの有効なアプローチであることを示しています。

質問: 71

プラットフォームエンジニアは、Konvoy Image Builder を使用してカスタムオペレーティングシステムイメージを構築する必要があります。このイメージは、様々なプラットフォームにクラスタを展開するために使用されます。エンジニアは、Konvoy の要件と互換性のある OS イメージを作成するという任務を負っています。Konvoy Image Builder を使用して互換性のあるイメージを正常に構築するには、開発環境が必要な前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

Konvoy Image Builder を使用して互換性のある OS イメージを作成するには、どのシステムが必要ですか？

A. AWS アカウント内の Lambda インスタンス

B. KVM を使用した仮想化 arm64 環境

C. USB 接続の 32 ビット Windows マシン

D. x86_64 ベースの Linux または MacOS マシン

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Konvoy Image Builder では、OS イメージを構築およびカスタマイズするために、64 ビット Linux または MacOS 環境 (x86_64 アーキテクチャ) が必要です。

参照：

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - Konvoy イメージビルダー システム要件」NCP-CN 6.10 学習ガイド - KIB 環境の前提条件」

質問: 72

```
Refer to the exhibit:

NUTANIX™

nutanix.kib_image:
nutanix.kib_image: TASK [offline : upload mindthegap] *****
nutanix.kib_image: changed: [default]
nutanix.kib_image:
nutanix.kib_image: TASK [offline : create offline OS packages directory] *****
nutanix.kib_image: changed: [default]
nutanix.kib_image:
nutanix.kib_image: TASK [offline : upload OS packages bundle to remote] *****
nutanix.kib_image: An exception occurred during task execution. To see the full traceback, use -vvv. The error was: If you are using a module
nutanix.kib_image: fatal: [default]: FAILED! => {"changed": 1, "msg": "Could not find or access '/home/bovan01/nkp-v2.12.0/cli/.nkp-ima
ge-builder-3834907389/playbooks/./artifacts/1.29.6_ubuntu_22.04_x86_64.tar.gz' on the Ansible Controller.\nif you are using a module and expect
the file to exist on the remote, see the remote_src option."}
nutanix.kib_image:
nutanix.kib_image: PLAY RECAP *****
nutanix.kib_image: default                =12  changed=4  unreachable=0  failed=1  skipped=2  rescued=0  ignored=0
=> nutanix.kib_image: Provisioning step has errors: Running the cleanup provisioner, if present...
=> nutanix.kib_image: Force deleting virtual machine...
nutanix.kib_image: Virtual machine successfully deleted
build 'nutanix.kib_image' errored after 40 seconds 457 milliseconds: Error executing Ansible: Non-zero exit status: exit status 2
=> Wait completed after 40 seconds 457 milliseconds
```

プラットフォームエンジニアは、Nutanixインフラストラクチャ上に新しいNKPクラスタをエアギャップ環境に展開する準備をしています。準備プロセスの一環として、エンジニアはNKPクラスタノードに使用するUbuntu 22.04インスタンスを提供しています。このインスタンスは、企業のOSイメージ強化基準に準拠しています。しかし、NIBの準備プロセス中に、図に示すエラーが発生しました。

NIB の準備の試みが失敗した理由は何でしょうか？

- A. エンジニアは、NIB-prep コマンドで OS パッケージバンドルの inartifacts ディレクトリを指定しました。
- B. Ubuntu 22.04 は、Nutanix インフラストラクチャ上の NKP ノードでサポートされている OS ではないため、必要な OS パッケージバンドルが存在しません。
- C. エンジニアは、NIB 準備の試行前に、必要な NKP イメージをローカルレジストリにシードしていません。
- D. エンジニアは、NIB 準備の試行前に OS パッケージバンドルを作成していません。

正解: D ([コメントを发表する](#))

エラーには次のように記載されています:

```
二
コピー
'/home/.../nkp-image-builder-.../playbooks/.../artifacts/1.29.6_ubuntu_22.04_x86_64' が見つからないか、アクセスできませんでした。
tar.gz'
```

これは、OS パッケージバンドル (artifacts/1.29.6_ubuntu_22.04_x86_64.tar.gz) が作成されていないか、存在しないことを示しています。OS パッケージバンドルの作成は、NIB ワークフローの前提条件です。

キーリファレンス:

* Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - NIB 用 OS パッケージバンドルの作成」

* NCP-CN 6.10 学習ガイド - NIB 準備の前提条件」

質問: 73

以前、EKS クラスターを NKP (Fleet Management) で管理するためにアタッチしました。現在、プラットフォームエンジニアはライセンス上の理由から、EKS クラスターを NKP から切断するよう指示されています。クラスターを切断した後、開発者は、EKS クラスターが NKP から正常にデタッチされたにもかかわらず、アプリケーションの変更が EKS クラスターにまだ反映されていることに気が付きました。エンジニアはこの問題をどのように解決すべきでしょうか？

A. 開発者のデプロイメント設定ファイルに不適切な設定が含まれている可能性があります。修正を依頼するか、AWSテクニカルサポートにお問い合わせください。

B. 切り離されたクラスターの Flux インストールは、管理 Git リポジトリから手動で切断する必要があります: `kubectl -n kommander-flux patch gitrepo management -p '{"spec":{"suspend":true}}' --type merge`

C. EKS クラスターを強制的にデタッチします: `nkp detach cluster -c detached-cluster-name --force`

D. 分離されたクラスターも NKP から削除する必要があります: `nkp delete cluster -c detached-cluster-name`

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 74



プラットフォームエンジニアは、すべてのワークスペースでインサイトを確認できません。これは、社内のすべての Kubernetes クラスターのすべてのアラートを制御するための重要な機能です。NKP インサイトの生成を開始するには、エンジニアは何をする必要がありますか？

A. NKP Insights アドオン ライセンスを取得します。

B. `kubectl apply -f nkp-insights-1.2.2 -- kubeconfig=<cluster>.conf` を使用して、すべての Kubernetes クラスターに nkp-insights をインストールします。

C. 永続ボリュームクレームを作成し、nkp-insights に割り当てます。このアプリケーションでは、ログとデータを保存するためにボリュームが必要です。nkp create appdeployment nkp-insights --app nkp-insights-1.2.2 で nkp-insights をインストールします。

--workspace コマンドーワークスペース

正解: C ([コメントを发表する](#))

この展示では、NKP UI に「インサイトが見つかりません」というメッセージが表示されています。これは、プラットフォームの予測分析および可観測性機能である NKP Insights がアクティブになっていないことを示しています。NKPA コースでは、NKP Insights は Kubernetes クラスターの異常検知とアラート機能を提供するプラットフォームアプリケーションですが、インサイトを生成するにはデプロイと設定が必要であると説明されています。

正しいアプローチ (オプション C) には、次の 2 つのステップが含まれます。

* 永続ボリューム要求 (PVC) を作成し、nkp-insights に割り当てます。NKP Insights は、分析用のログ、メトリック、履歴データを保存するために永続ストレージを必要とします。このコースでは、このストレージを提供するために PVC を作成し、アプリケーションが分析情報を生成するためのデータを保持できるようにする必要があります。

* `nkp create appdeployment nkp-insights --app nkp-insights-1.2.2 --workspace kommander-workspace` で nkp-insights をインストールします。このコマンドは、指定されたワークスペース (kommander-workspace) 内のすべてのクラスターに NKP Insights アプリケーションをデプロイします。--app フラグでアプリケーションのバージョンを指定し、このデプロイにより、ワークスペース内のすべてのクラスターに対してインサイトが生成されます。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイドには、NKP Insights を有効にするには、ストレージ用の PersistentVolumeClaim を作成し、`nkp create appdeployment nkp-insights -- app <version> --workspace <workspace-name>` を使用してアプリケーションをデプロイし、クラスター全体のインサイト生成を開始します」と記載されています。これは、NKP Insights が集中的な監視機能を提供するため、企業全体のクラスター全体でアラートを制御する必要性に合致しています。

誤ったオプション:

* A. NKP Insights アドオンライセンスを取得してください。NKP Insights は、上位ライセンス（例NKP Ultimate）に含まれるプラットフォームアプリケーションであり、独立したアドオンではありません。本コースでは、別途ライセンスを取得する必要はありません。

* B. `kubectl apply` を使用してすべてのクラスターに `nkp-insights` をインストールします。この方法は手動で非効率的です。

NKP の `appdeployment` コマンドは、ワークスペース内のすべてのクラスターにわたるデプロイメントを自動化します。

:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) コース、可観測性と洞察のセクション。

Nutanix Cloud Native (NCP-CN) 6.10 学習ガイド、2 日目の操作に関する章。

Nutanix Cloud Bible、NutanixKubernetesPlatform セクション: <https://www.nutanixbible.com>

質問: 75

ある電子商取引会社は、休日に同時トラフィックの急増によりサービスの低下が発生するため、NKP クラスターに自動スケーリング構成を適用することにしました。

展示品に示されている構成を最もよく表す記述はどれですか？

A. オートスケーラーには 15 個または 3 個のノードが含まれる可能性があります。

B. オートスケーラーは必要に応じてノードの数を増やすことができますが、3 未満に減らすことはできません。

C. オートスケーラーはノード数を最大 15 まで増やすことができますが、その数を 3 未満に減らすことはできません。

D. オートスケーラーはノード数を最大 3 まで増やすことができますが、15 未満に減らすことはできません。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

この図は、オートスケーラー関連のアノテーションを持つ NodeGroup リソースの YAML マニフェストを示しています。

ヤムル

コピー

```
cluster.x-k8s.io/cluster-api-autoscaler-ノードグループの最小サイズ: "3"
```

```
cluster.x-k8s.io/cluster-api-autoscaler-ノードグループの最大サイズ: "15"
```

NKPA 6.10 のドキュメントによると、これらのアノテーションは、指定されたノードグループ内のオートスケーラーの最小ノード数と最大ノード数を設定します。オートスケーラーは、ノード数が最小値 (3) を下回ったり、最大値 (15) を超えたりしないようにします。

キーリファレンス:

「クラスターオートスケーラーは、ワークロード要件に基づいて、NodeGroup を最大サイズまでスケールアップし、最小サイズまでスケールダウンします。」参考: Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - クラスタ オートスケーラーの構成」 NCP-CN 6.10 学習ガイド - オートスケーラーのノードグループ アノテーション」

質問: 76

プラットフォームエンジニアは、エアギャップ環境のプライベートレジストリにNKPバンドルをロードした後、ブートストラップクラスターを作成するためにKonvoyブートストラップイメージが必要になります。Konvoyイメージがレジストリにロードされていません。要塞ホストにKonvoyブートストラップイメージをロードする最も効果的なコマンドはどれですか？

- A. nkp push bundle --bundle konvoy-bootstrap-image-<version>.tar --to-registry=<REGISTRY_URL>
- B. docker イメージタグ konvoy-bootstrap-image-<version>.tar バージョン docker.io/konvoy-bootstrap バージョン
- C. nkp load image -f konvoy-bootstrap-image-<version>.tar --to-registry=<REGISTRY_URL>
- D. docker load -i konvoy-bootstrap-image-<バージョン>.tar

正解: [D \(コメントを发表する\)](#)

有効的なNCP-CN問題集はJPNTTest.com提供され、NCP-CN試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新NCP-CN試験問題集を提供します。JPNTTest.com NCP-CN試験問題集はもう更新されました。ここでNCP-CN問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-CN-mondaishu> 111問、30%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 77

```
NODEPOOL DESIRED READY KUBERNETES VERSION
md-0      10      10      v1.29.9
md-1      1       1       v1.29.9

[nutanix@nkp-boot ~]$ kubectl get nodes --kubeconfig=demo.conf
NAME                                STATUS ROLES      AGE  VERSION
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-24rgz        Ready  <none>        127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-6cmwz        Ready  <none>        22h  v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-9hkgd        Ready  <none>        127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-dqz1x        Ready  <none>        127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-j451w        Ready  <none>        127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-nbbjj        Ready  <none>        127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-r5sdb        Ready  <none>        127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-rgczs        Ready  <none>        22h  v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-swtfd        Ready  <none>        127m v1.29.9
demo-md-0-gs6c5-n2kp5-znb72        Ready  <none>        127m v1.29.9
demo-md-1-hq2sz-mw4p6-fptcc        Ready  <none>        6h15m v1.29.9
```

demo という Kubernetes クラスターのノードプールを確認すると、ワーカーが1つしかない md-1 というノードプールがあります。このワーカーは、ノードプール md-1 と一緒に削除する必要があります。

このタスクはどのようにして達成すべきでしょうか？

- A. nkp delete nodepool md-1 --cluster-name=demo を実行します。
- B. acli vm.delete demo-md-1-hQ2sz-mw4p6-fptc を実行します。
- C. ncli vm.delete demo-md-1-hQ2sz-mw4p6-fptc を実行します。
- D. nkp node scale nodepool md-1 --replicas=0 --cluster-name=demo を実行します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

NKPA 6.10 のドキュメントでは、NKP クラスター内のノードプール全体 (ワーカーノードを含む) を削除する方法として、`nkp delete nodepool` コマンドの使用がサポート対象であり推奨されていることが明記されています。このコマンドは、指定されたノードプールと関連するすべてのリソースを、制御されたサポートされた方法でクラスターから削除します。

ドキュメントからの主な参照:

`nkp delete nodepool <nodepool-name> --cluster-name=<cluster-name>` を使用して、ノードプールとその関連リソースを安全に削除します。ACL または NCLI による VM の手動削除は、Kubernetes および NKP リソースのライフサイクルをバイパスし、孤立したリソースや一貫性のないクラスター状態が残る可能性があるため、推奨されません。

参照:

Nutanix Kubernetes プラットフォーム管理 (NKPA) 6.10 - ノードプールの削除」NCP-CN 6.10 学習ガイド - ノードプールのライフサイクル管理」

有効的な**NCP-CN**問題集はJPNTTest.com提供され、**NCP-CN**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**NCP-CN**試験問題集を提供します。JPNTTest.com NCP-CN試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-CN**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-CN-mondaishu> 111問、30%**ディスカウント**、特別な割引コード: **JPNshiken**」